

第4章

調査結果の概要分析

第4章 調査結果の概要分析

溝口 元委員

田中浩二委員

1. はじめに

今回の調査のテーマである保育所における業務改善については、社会福祉法人日本保育協会がちょうど30年前、『保育所保育管理業務実態調査報告書. 昭和58年度』(1984年3月刊行)以来、『保育に活かす記録：保育所保育業務の効率化に関する調査研究より』(1998年3月刊行)を含め、断続的に取り組んで来たテーマである。今回は、保育現場においても、社会的にも大きな関心を呼んでいる保育所の業務の実状について、保育所長および保育士に分けて明らかにしようとした。

調査方法は、これまでと同様に調査票（質問紙）を郵送によって保育所に送付し、期限を限って回答されたものを集計したものである。回答には、各設問の選択肢にどの程度の回答が行われたか、ということなどを数値化しながら集計した「量的調査結果」と自由に文章で回答して頂いた内容を分析した「質的調査結果」が含まれている。

なお、表にある各項目の割合（パーセント）は、小数点第2位を四捨五入しており、合計が100%にならない場合がある。

2. 回収率と調査の妥当性

(1) 回収率

調査は、全国の認可保育所から「層化無作為抽出法」という偏りが出ない選び方で30分の1を抽出した。こうして得られた815ヶ所に平成25（2013）年8月23日に調査票を郵送で配布し（郵送法）、同年10月16日を回答締め切り日に設定した。その結果、382ヶ所から回収が得られ、回収率は46.9%だった。

このうち、認可保育所ではなかったところの回答1件を無効としたため、最終的な有効回収調査票数は381件となり、これらを対象に分析を行った。件数こそ、昨年度の『低年齢児保育に関する調査報告』等よりも少なくなっているが、保育所長、保育士と分けた調査の上、設問の内容、数からみて今日の保育所の業務改善に関する実態を反映した調査が行われたと考えられる。

(2) 調査方法の妥当性

社会調査法という観点に立ってみると、一般に、調査票を配布して回答を返送してもらいそれを分析するという「郵送法」は、比較的容易な方法で大規模調査ができるという利点がある

半面、回収率は25%以下であることが大半であると指摘されている。今回の調査では、全国規模で「保育所における業務改善」に関する実態を浮き彫りにすることが第一目的である。同じ調査票を用いる調査であっても、無効回答が少ない特定の場所に回答者を集め、設問に対する質疑に対応しながら一斉に回答をしてもらう「一斉法」や電話調査を実施して調査することも考えられるが、調査対象や調査員の数、勤務時間内での回答想定者からの回答、経費等から実現性が低いといえる。

また、近年、一部では実施されているインターネットを使った調査が注目されているが、現状では調査システム、調査側、回答者側ともに時期早尚と判断した。したがって、「資料」として添付した調査票を用いた「郵送法」で今回の調査を行ったことは、現時点では、妥当な調査方法であったと考えられる。

以下、結果の分析は[保育所長編]、[保育士編]それぞれについて述べていく。

3. 保育所長編

(1) 回答者

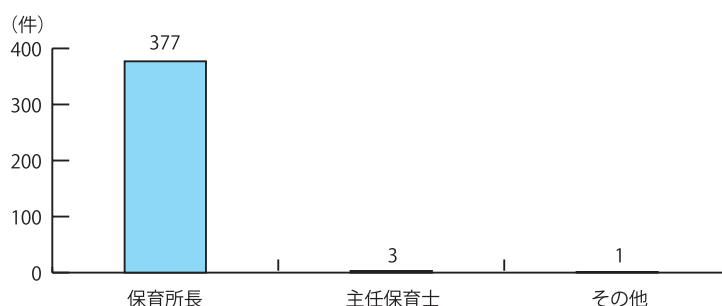
郵送法による調査で返送された381件の回答者は、保育所長377件（99.0%）、次いで主任保育士が3件（0.8%）、その他1件（0.1%）だった（表1と図1）。所長に回答を求めたが、4件が異なっていた。しかし、これらの回答も所長の意向を得て記入のみが所長以外の方、あるいは所長が他の職も兼ねているなどのことが考えられるため、以下の集計・分析対象に含めることとした。

表1 保育所長編の回答者

n=381

項目	件数	パーセント
保育所長	377	99.0
主任保育士	3	0.8
その他	1	0.3
合計	381	100

図1 保育所長編の回答者



(2) 通算経験年数

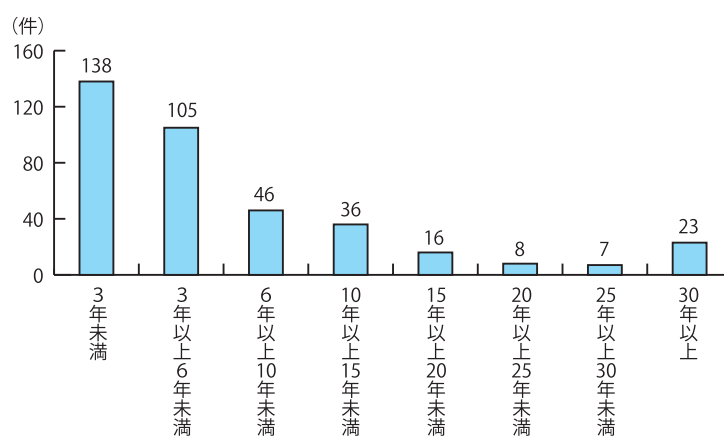
保育所長としての経験年数は3年未満が最も多く（36.2%）、年数が増す毎に度数が減少していった（表2と図2）。ここから、保育所長の過半数は経験6年未満ということがわかる。

表2 経験年数

n=381

項目	件数	パーセント
3年未満	138	36.2
3年以上6年未満	105	27.6
6年以上10年未満	46	12.1
10年以上15年未満	36	9.4
15年以上20年未満	16	4.2
20年以上25年未満	8	2.1
25年以上30年未満	7	1.8
30年以上	23	6
合計	379	99.5
欠損値	2	0.5
合計	381	100

図2 経験年数



(3) 調査票Ⅰ 保育所の基本情報について

1) 経営主体

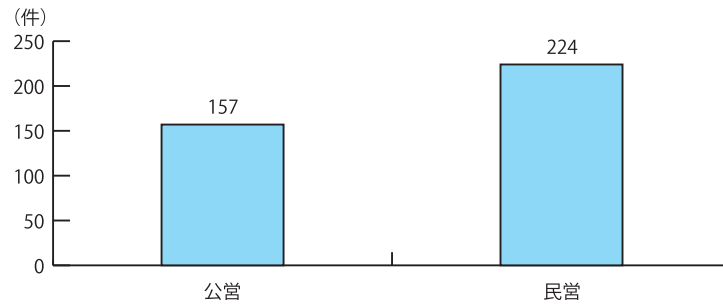
市町村など「公営」が157件（41.2%）、社会福祉法人などの「民営」が224件（58.8%）となった（表3と図3）。

表3 経営主体

n=381

項目	件数	パーセント
公営	157	41.2
民営	224	58.8
合計	381	100.0

図3 経営主体



2) 同一法人内の認可保育所（民営のみ）

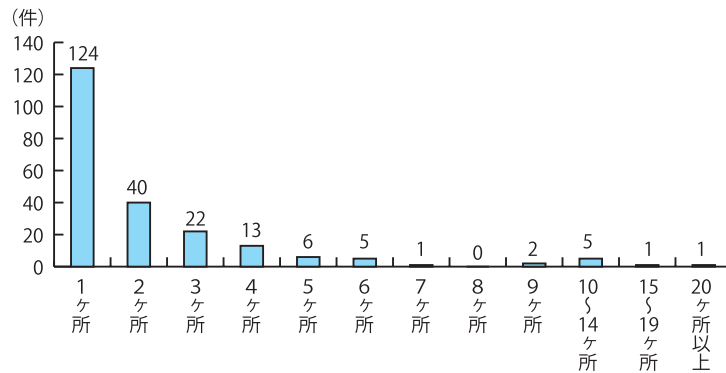
民営を対象（224件）とした同一法人内の認可保育所は、1ヶ所が最も多く124件（55.4%）、次いで、2ヶ所（40件、17.9%）、3ヶ所（22件、9.8%）、4ヶ所（13件、5.8%）、5ヶ所（6件、2.7%）と減少していった。このことは、民営の保育所の90%以上は、同一法人内では5ヶ所以内で運営をしていることを示している（表4と図4）。

表4 法人内認可保育所数

n=224

項目	件数	パーセント
1ヶ所	124	55.4
2ヶ所	40	17.9
3ヶ所	22	9.8
4ヶ所	13	5.8
5ヶ所	6	2.7
6ヶ所	5	2.2
7ヶ所	1	0.4
8ヶ所	0	0.0
9ヶ所	2	0.9
10～14ヶ所	5	2.2
15～19ヶ所	1	0.4
20ヶ所以上	1	0.4
未回答	4	1.8
合計	224	100.0

図4 法人内認可保育所数



3) 所在地区分

詳細は本書4ページを参照。

4) 施設認可年

表5に示した。過半数の保育所が昭和47（1972）年までに設立されており、40年以上の運営実績があることになる。

表5 施設認可年

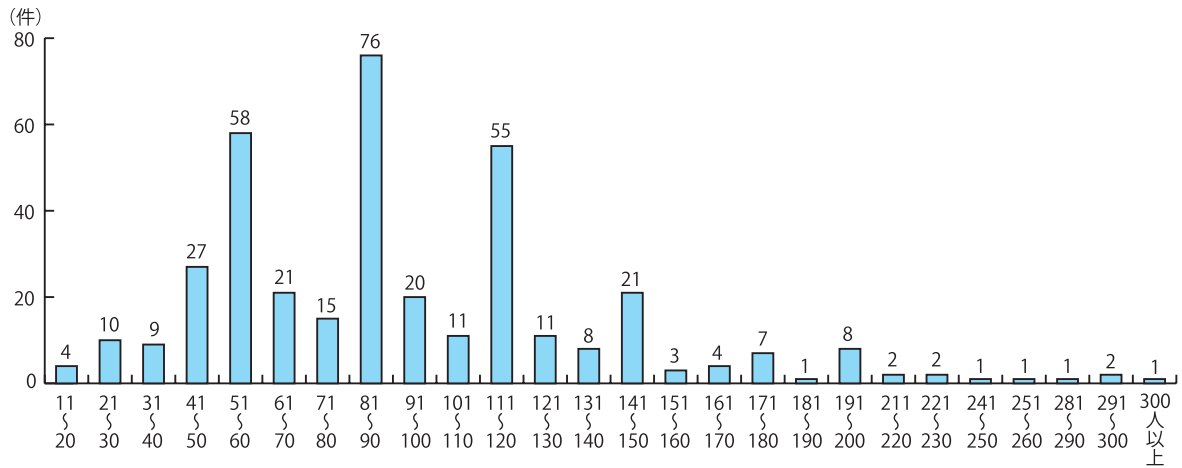
n=381

項目	件数	パーセント
昭和24年以前	39	10.2
昭和25～34年	74	19.4
昭和35～44年	50	13.1
昭和45～54年	121	31.8
昭和55～平成1年	29	7.6
平成2～11年	10	2.6
平成12年以降	58	15.2
合計	381	100.0

5) 児童定員数

寄せられた結果を10人区切りで分けた保育所の定員は（図5）のようになった。定員の平均は98.0人であり、平均値からのデータの広がりやの程度を示す標準偏差は±47.9人となった。また、定員の最小値は20人、定員の最大値は360人だった。最も多い定員の層は「81～90人」の76件（19.9%）、次いで「51～60人」の58件（15.2%）、「111～120人」の55件（14.4%）となった。

図5 児童定員数（10人区切り）



6) クラス別在籍児童数

回答を基に、年齢区分によるクラス別在籍数をまとめた（表6）。各年齢および全体の平均値、中央値、最頻値、最小値、最大値、標準偏差は表6の通りとなる。年齢別および全体の保育所入所児童数を図6から図12（図6：0歳児、図7：1歳児、図8：2歳児、図9：3歳児、図10：4歳児、図11：5歳児、図12：児童数合計）に示した。

表6 年齢別在籍児童数

n=381

	平均値	中央値	最頻値	最小値	最大値	標準偏差
0歳児在籍数	6.9	6	0	0	25	5.2
1歳児在籍数	14.1	13	12	0	52	8.2
2歳児在籍数	16.6	15	12	0	60	9.0
3歳児在籍数	20.6	19	18	0	78	11.5
4歳児在籍数	20.7	19	18	0	86	12.3
5歳児在籍数	20.8	20	0	0	95	12.9
全 体	99.6	94	69	8	353	50.7

図6 在籍児童数（0歳児）

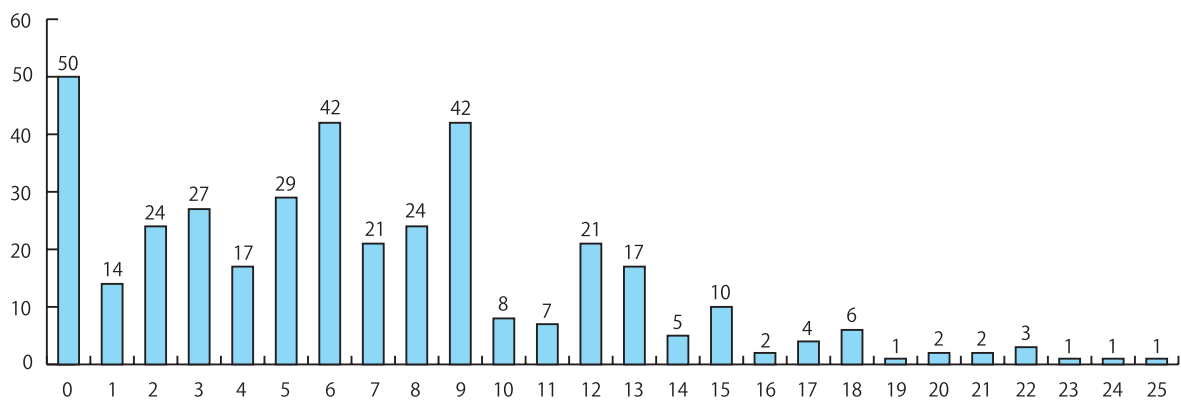


図7 在籍児童数（1歳児）

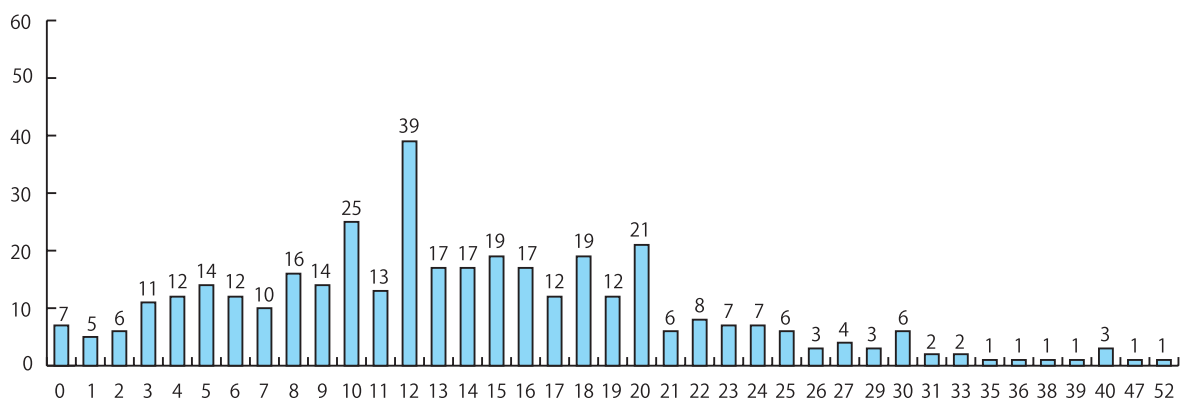


図8 在籍児童数（2歳児）

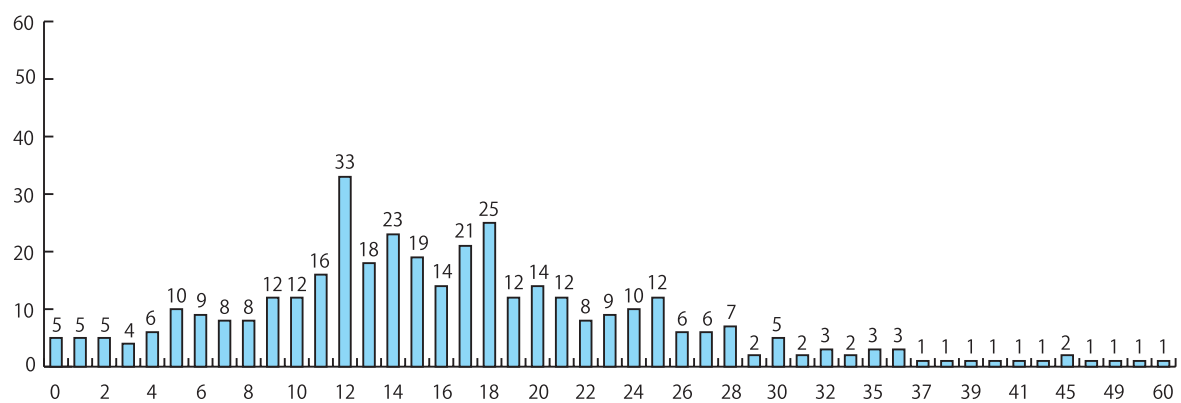


图9 在籍兒童数（3歳児）

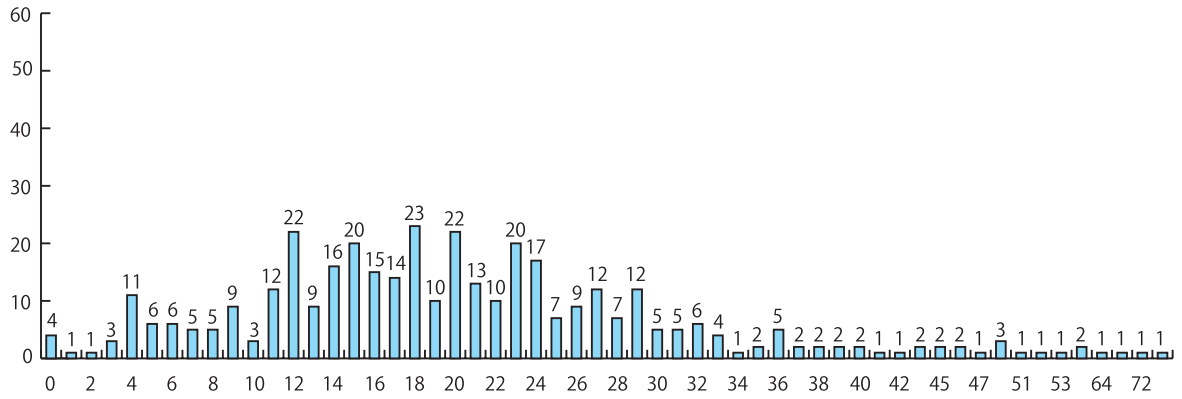


图10 在籍兒童数（4歳児）

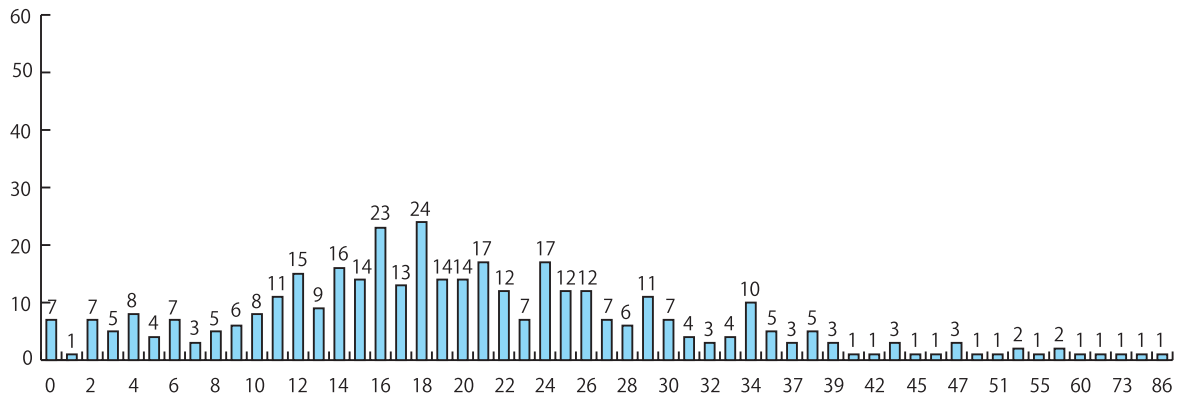


图11 在籍兒童数（5歳児）

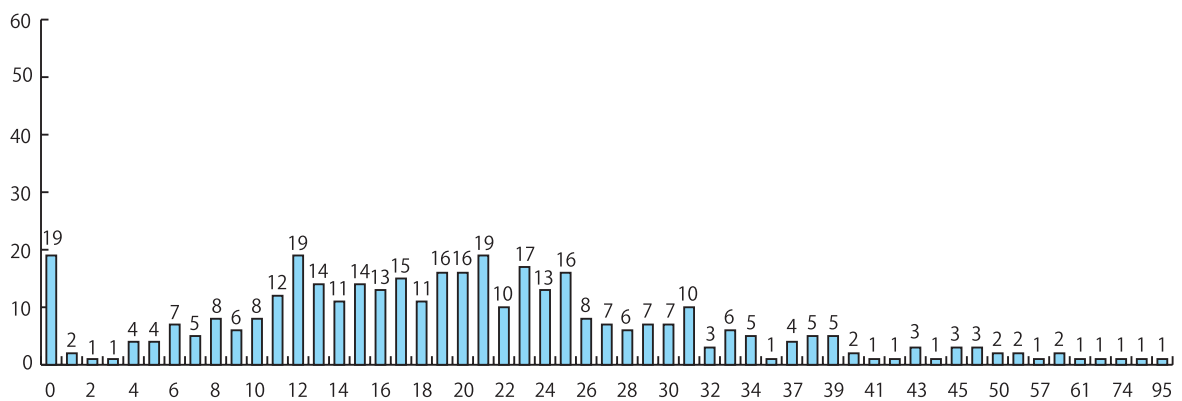
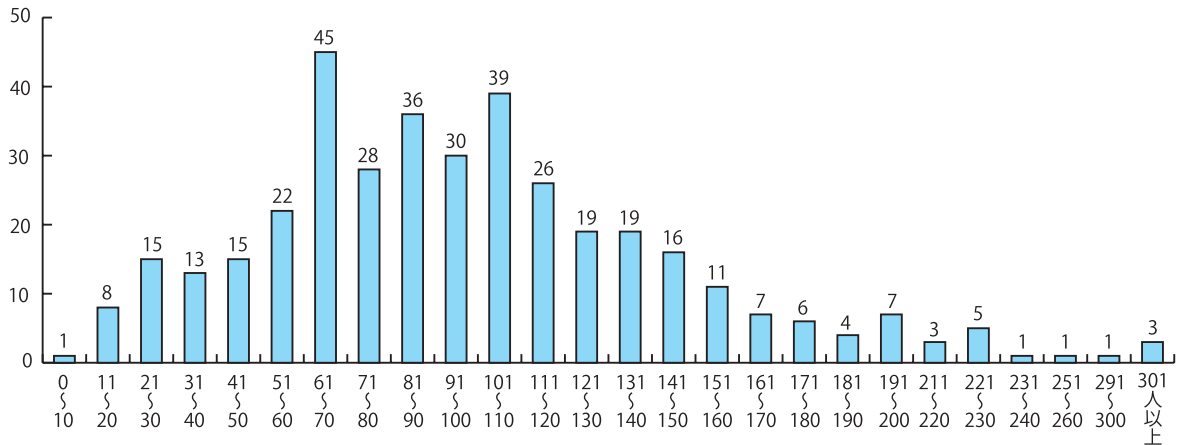


図12 在籍児童数合計（10人区切り）



各年齢の入所児童数の平均値は0歳児が6.9人、1歳児が14.1人、2歳児が16.6人、3歳児が20.6人、4歳児が20.7人、5歳児が20.8人、全体では99.6人だった。最も少ない値である最小値は、0歳児から5歳児まで0人だった。最も多い値である最大値は、0歳児からそれぞれ25人、52人、60人、78人、86人、95人となり、全体における最大値は353人であった。

データの広がりを示す標準偏差は、0歳からそれぞれ5.2、8.2、9.0、11.5、12.3、12.9となり、年齢が上がるほど保育所の入所児童数の差が大きくなった。

（4）調査票Ⅱ 保育所の職場環境に対する評価（参照：79ページ）

設問7「貴保育所では、保育理念等に基づく独自のカリキュラムを生み出そうとしていますか」から設問34「あなたは、貴保育所の方針を職員に周知していますか」までのそれぞれの回答を表7と図13にまとめた。

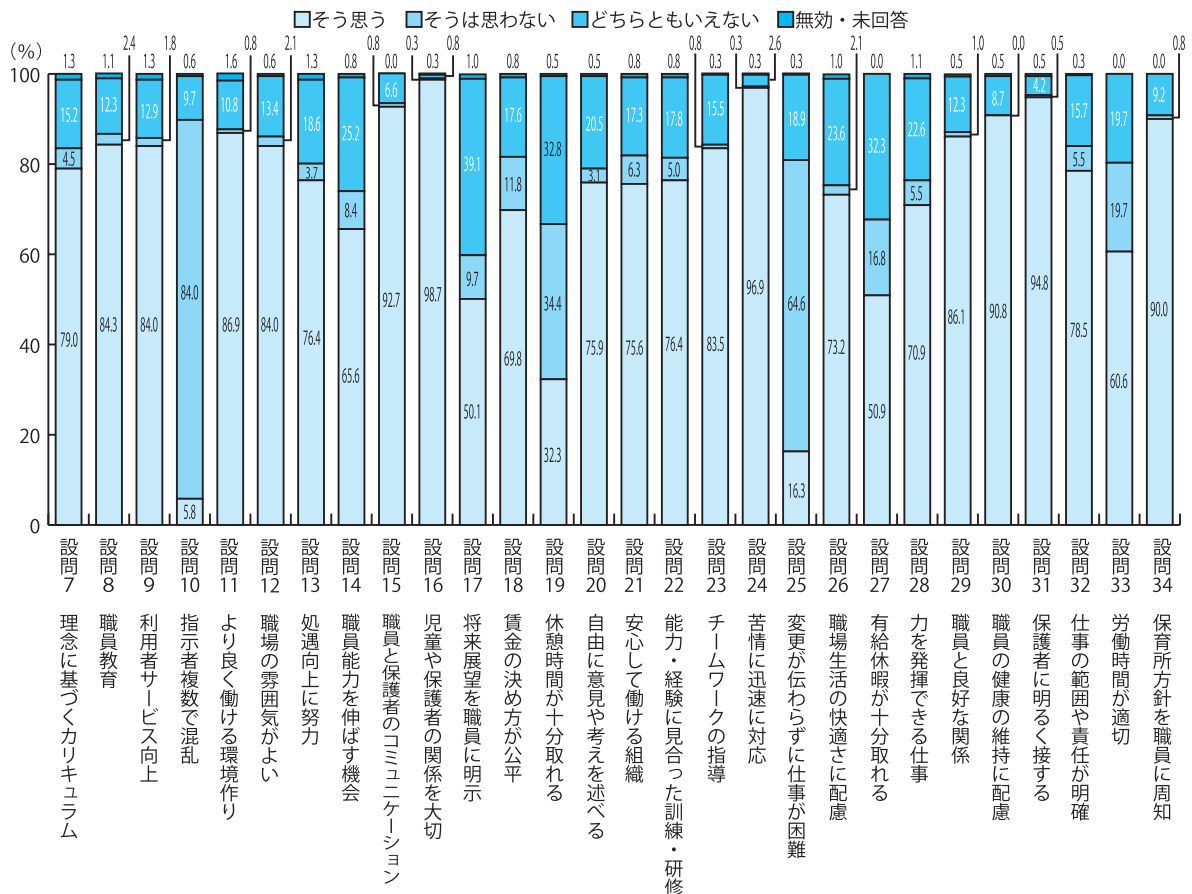
表7 保育所の職場環境に対する評価（設問7から34）

n=381

項目	そう思う	そうは 思わない	どちらともい えない	無効 未回答	合計
設問7 理念に基づくカリキュラム	301 (79.0)	17 (4.5)	58 (15.2)	5 (1.3)	381 (100.0)
設問8 職員教育	321 (84.3)	9 (2.4)	47 (12.3)	4 (1.1)	381 (100.0)
設問9 利用者サービス向上	320 (84.0)	7 (1.8)	49 (12.9)	5 (1.3)	381 (100.0)
設問10 指示者複数で混乱	22 (5.8)	320 (84.0)	37 (9.7)	2 (0.6)	381 (100.0)
設問11 より良く働ける環境作り	331 (86.9)	3 (0.8)	41 (10.8)	6 (1.6)	381 (100.0)
設問12 職場の雰囲気がよい	320 (84.0)	8 (2.1)	51 (13.4)	2 (0.6)	381 (100.0)
設問13 処遇向上に努力	291 (76.4)	14 (3.7)	71 (18.6)	5 (1.3)	381 (100.0)
設問14 職員能力を伸ばす機会	250 (65.6)	32 (8.4)	96 (25.2)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問15 職員と保護者のコミュニケーション	353 (92.7)	3 (0.8)	25 (6.6)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問16 児童や保護者の関係を大切	376 (98.7)	1 (0.3)	3 (0.8)	1 (0.3)	381 (100.0)

設問17	将来展望を職員に明示	191 (50.1)	37 (9.7)	149 (39.1)	4 (1.0)	381 (100.0)
設問18	賃金の決め方が公平	266 (69.8)	45 (11.8)	67 (17.6)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問19	休憩時間が十分取れる	123 (32.3)	131 (34.4)	125 (32.8)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問20	自由に意見や考えを述べる	289 (75.9)	12 (3.1)	78 (20.5)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問21	安心して働ける組織	288 (75.6)	24 (6.3)	66 (17.3)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問22	能力・経験に見合った訓練・研修	291 (76.4)	19 (5.0)	68 (17.8)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問23	チームワークの指導	318 (83.5)	3 (0.8)	59 (15.5)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問24	苦情に迅速に対応	369 (96.9)	1 (0.3)	10 (2.6)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問25	変更が伝わらずに仕事が困難	62 (16.3)	246 (64.6)	72 (18.9)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問26	職場生活の快適さに配慮	279 (73.2)	8 (2.1)	90 (23.6)	4 (1.1)	381 (100.0)
設問27	有給休暇が十分取れる	194 (50.9)	64 (16.8)	123 (32.3)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問28	力を発揮できる仕事	270 (70.9)	21 (5.5)	86 (22.6)	4 (1.0)	381 (100.0)
設問29	職員と良好な関係	328 (86.1)	4 (1.0)	47 (12.3)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問30	職員の健康の維持に配慮	346 (90.8)	0 (0.0)	33 (8.7)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問31	保護者に明るく接する	361 (94.8)	2 (0.5)	16 (4.2)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問32	仕事の範囲や責任が明確	299 (78.5)	21 (5.5)	60 (15.7)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問33	労働時間が適切	231 (60.6)	75 (19.7)	75 (19.7)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問34	保育所方針を職員に周知	343 (90.0)	3 (0.8)	35 (9.2)	0 (0.0)	381 (100.0)

図13 保育所の職場環境に対する評価（設問7から34）



「そう思う」の回答が90%を超えた設問は、以下の6つとなる。

- 16 貴保育所では、入所児童や保護者との関係を大切にしていますか 376件 (98.7%)
- 24 あなたは、保護者等の苦情に迅速に対応できるように努力していますか 369件 (96.9%)
- 31 あなたは、入所児童の保護者に対し、明るくハキハキと接していますか 361件 (94.8%)
- 15 あなたは、職員と保護者とのコミュニケーションが円滑に進むように配慮していますか 353件 (92.7%)
- 30 あなたは、職員の健康の維持や向上に十分気を配っていると思いますか 346件 (90.8%)
- 34 あなたは、貴保育所の方針を職員に周知していますか 343件 (90.0%)

これらをまとめると、保育所長は保育所の職場環境について、入所児童や保護者との関係を大切にし、保護者等の苦情に迅速に対応できるように努力しつつ、明るくハキハキと接する。さらに、職員と保護者とのコミュニケーションが円滑に進むように配慮し職員の健康の維持や向上に十分気を配る。そして、貴保育所の方針を職員に周知するということになる。

また、「そう思わない」の回答が多かった上位3つは、

- 10 貴保育所では、仕事の指示をする人が何人もいて、誰の指示に従えばよいのか困ることがありますか 320件 (84.0%)
 - 25 貴保育所では、計画等の変更がすぐに伝わらないために、仕事がやりにくくなることがありますか 246件 (64.6%)
 - 19 貴保育所では、休憩時間を十分に取ることができますか 131件 (34.4%)
- だった。

このことは、保育所内での指揮系統は確立し業務に混乱を起こすことはほとんどないが、休憩時間に関しては十分に取れていないと感じる職員が少なくないということになる。

(5) 調査票Ⅲ 保育士の業務への負担感に対する評価 (参照：83ページ)

設問「35 クラス担任をすること」から設問「56 保育士自身のプライベートと両立させること」までのそれぞれの回答を表8と図14にまとめた。

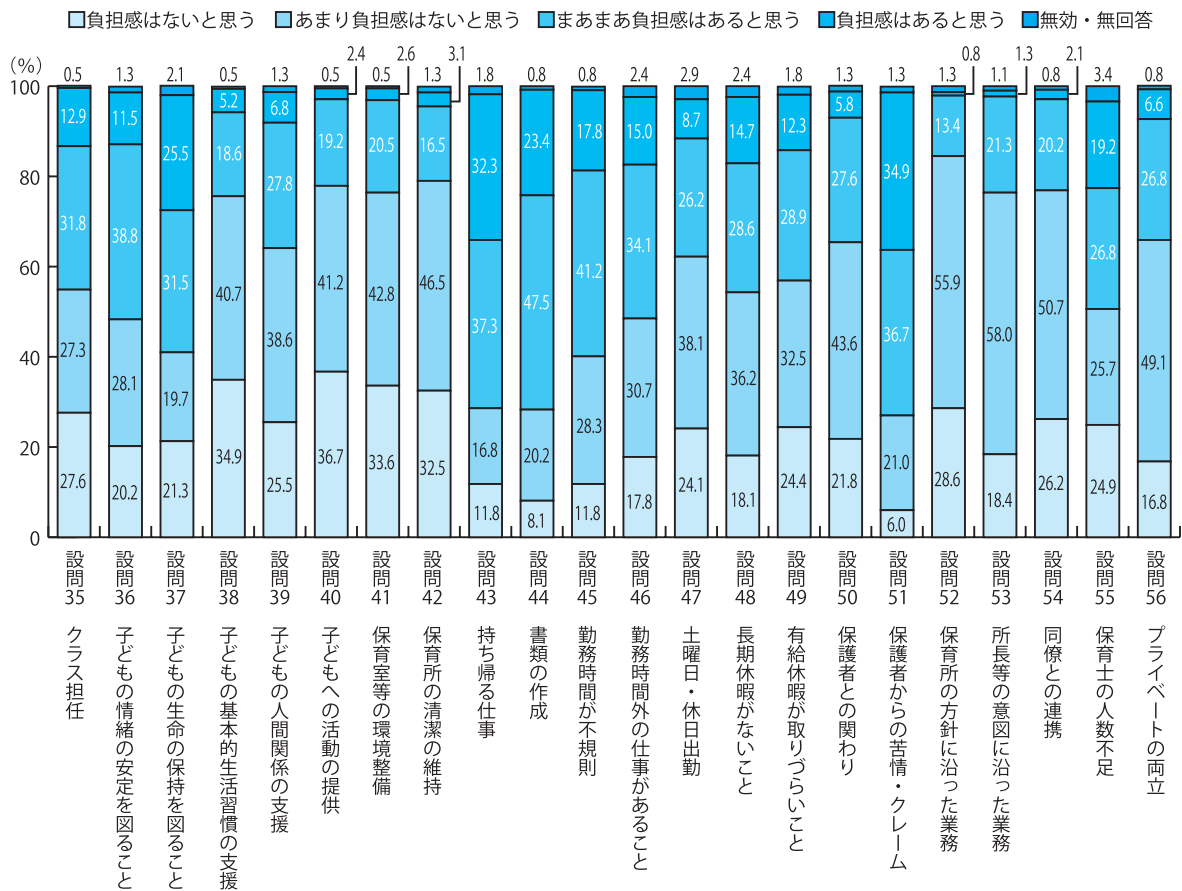
表8 保育士の業務への負担感に対する評価 (設問35から56)

n=381

項目	負担感はないと思う	あまり負担感はないと思う	まあまあ負担感はあると思う	負担感はあると思う	無効未回答	合計
設問35 クラス担任	105 (27.6)	104 (27.3)	121 (31.8)	49 (12.9)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問36 子どもの情緒の安定を図ること	77 (20.2)	107 (28.1)	148 (38.8)	44 (11.5)	5 (1.3)	381 (100.0)
設問37 子どもの生命の保持を図ること	81 (21.3)	75 (19.7)	120 (31.5)	97 (25.5)	8 (2.1)	381 (100.0)
設問38 子どもの基本的生活習慣の支援	133 (34.9)	155 (40.7)	71 (18.6)	20 (5.2)	2 (0.5)	381 (100.0)

設問39	子どもの人間関係の支援	97 (25.5)	147 (38.6)	106 (27.8)	26 (6.8)	5 (1.3)	381 (100.0)
設問40	子どもへの活動の提供	140 (36.7)	157 (41.2)	73 (19.2)	9 (2.4)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問41	保育室等の環境整備	128 (33.6)	163 (42.8)	78 (20.5)	10 (2.6)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問42	保育所の清潔の維持	124 (32.5)	177 (46.5)	63 (16.5)	12 (3.1)	5 (1.3)	381 (100.0)
設問43	持ち帰る仕事	45 (11.8)	64 (16.8)	142 (37.3)	123 (32.3)	7 (1.8)	381 (100.0)
設問44	書類の作成	31 (8.1)	77 (20.2)	181 (47.5)	89 (23.4)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問45	勤務時間が不規則	45 (11.8)	108 (28.3)	157 (41.2)	68 (17.8)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問46	勤務時間外の仕事があること	68 (17.8)	117 (30.7)	130 (34.1)	57 (15.0)	9 (2.4)	381 (100.0)
設問47	土曜日・休日出勤	92 (24.1)	145 (38.1)	100 (26.2)	33 (8.7)	11 (2.9)	381 (100.0)
設問48	長期休暇がないこと	69 (18.1)	138 (36.2)	109 (28.6)	56 (14.7)	9 (2.4)	381 (100.0)
設問49	有給休暇がとりづらいこと	93 (24.4)	124 (32.5)	110 (28.9)	47 (12.3)	7 (1.8)	381 (100.0)
設問50	保護者との関わり	83 (21.8)	166 (43.6)	105 (27.6)	22 (5.8)	5 (1.3)	381 (100.0)
設問51	保護者からの苦情・クレーム	23 (6.0)	80 (21.0)	140 (36.7)	133 (34.9)	5 (1.3)	381 (100.0)
設問52	保育所の方針に沿った業務	109 (28.6)	213 (55.9)	51 (13.4)	3 (0.8)	5 (1.3)	381 (100.0)
設問53	所長等の意図に沿った業務	70 (18.4)	221 (58.0)	81 (21.3)	5 (1.3)	4 (1.1)	381 (100.0)
設問54	同僚との連携	100 (26.2)	193 (50.7)	77 (20.2)	8 (2.1)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問55	保育士の人数不足	95 (24.9)	98 (25.7)	102 (26.8)	73 (19.2)	13 (3.4)	381 (100.0)
設問56	プライベートの両立	64 (16.8)	187 (49.1)	102 (26.8)	25 (6.6)	3 (0.8)	381 (100.0)

図14 保育士の業務への負担感に対する評価（設問35から56）



これらの内、業務改善を考える上で重要な「負担感はあると思う」「まあまあ負担感はあると思う」を多くの保育所長が感じた上位5項目をみってみる。

- 51 保護者からの苦情・クレーム等の対応 まあまあ負担感がある140件（36.7%）、負担感がある133件（34.9%）、合計273件（71.6%）
- 44 指導計画等の書類を作成すること まあまあ負担感がある181件（47.5%）、負担感がある89件（23.4%）、合計270件（70.9%）
- 43 家に持ち帰らなければならない仕事があること まあまあ負担感がある142件（37.3%）、負担感がある123件（32.3%）、合計265件（69.6%）
- 45 早出や遅番など勤務時間が不規則であること まあまあ負担感がある157件（41.2%）、負担感がある68件（17.8%）、合計225件（59.0%）
- 37 子どもの生命の保全を図ること まあまあ負担感がある120件（31.5%）、負担感がある97件（25.5%）、合計217件（57.0%）

このように保護者からの苦情（恐らくは無理難題のような事柄も含めて）や指導計画等の書類の作成、しかもそれを家の持ち帰ってこなさなければならないことが大きな問題点、解決すべき課題として浮かび上がってくる。つまり、子どもが大好きで子どもと関わる専門職として保育所に勤務したものの、子どもと関わる本来の仕事とかけ離れた仕事があまりにも多いことは業務遂行の上で大変由々しきことといえる。

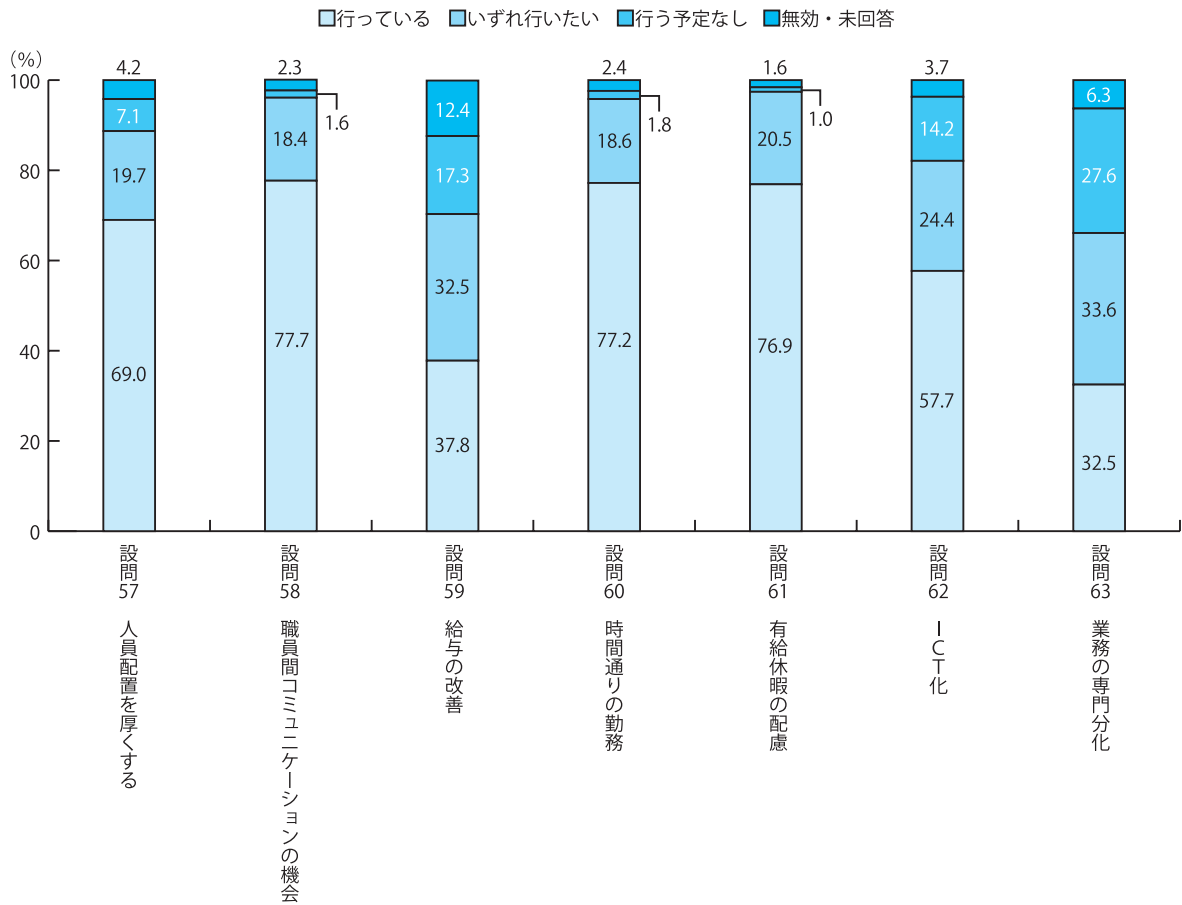
それではどのようにすれば良いのか、解決策への取り組みを尋ねたのが設問の57から63である。それぞれの結果を表9と図15に示した。

表9 保育士業務の改善のために行っていること（設問57から63）

n=381

項目	行っている	いずれ行いたい	行う予定なし	無効未回答	合計
設問57 人員配置を厚くする	263 (69.0)	75 (19.7)	27 (7.1)	16 (4.2)	381 (100.0)
設問58 職員間コミュニケーションの機会	296 (77.7)	70 (18.4)	6 (1.6)	9 (2.3)	381 (100.0)
設問59 給与の改善	144 (37.8)	124 (32.5)	66 (17.3)	47 (12.4)	381 (100.0)
設問60 時間通りの勤務	294 (77.2)	71 (18.6)	7 (1.8)	9 (2.4)	381 (100.0)
設問61 有給休暇の配慮	293 (76.9)	78 (20.5)	4 (1.0)	6 (1.6)	381 (100.0)
設問62 ICT化	220 (57.7)	93 (24.4)	54 (14.2)	14 (3.7)	381 (100.0)
設問63 業務の専門分化	124 (32.5)	128 (33.6)	105 (27.6)	24 (6.3)	381 (100.0)

図15 保育士業務の改善のためにやっていること（設問57から63）



すでに行われている順に並べると

- 58 職員間のコミュニケーションを図る機会を出来る限り多く設けること 296件 (77.7%)
- 60 時間通りの勤務になるような配慮 294件 (77.2%)
- 61 有給休暇を取りやすいような配慮 293件 (76.9%)
- 57 職員の人員配置を厚くすること 263件 (69.0%)
- 62 ICT (IT) 化による業務省力化 220件 (57.7%)
- 59 給与の改善 144件 (37.8%)
- 63 業務の専門分化による業務省力化 124件 (32.5%)

ようになった。一つの観点として、軽費のかかりにくいものから改善の努力がなされていること、そこから着手されていることがわかる。

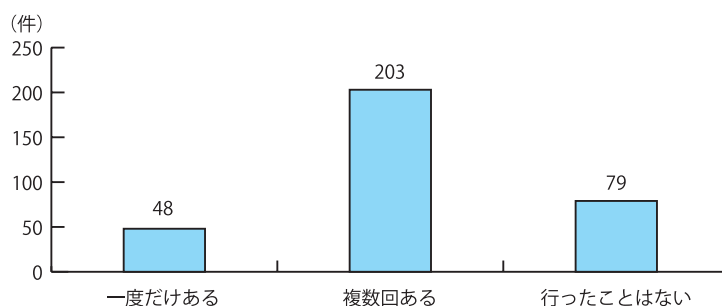
(6) 調査票Ⅳ 保育所業務の改善・工夫 (参照：90ページ)

設問65保育環境向上への取り組みについては、複数回行ったことがあるが203件 (53.3%) あった反面、行ったことはないも79件 (20.7%) みられた。約4分の1の保育所で一度も業務の改善・工夫をしたことがないということは、それだけ困難な課題であり解決策への模索が行われているということが伺える (表10、図16)。

表10 保育環境向上のための業務改善・工夫への取り組み n=381

項目	件数	パーセント
行ったことが一度だけある	48	12.6
複数回ある	203	53.3
行ったことはない	79	20.7
無効・未回答	51	13.4
合計	381	100.0

図16 保育環境向上のための業務改善・工夫への取り組み



また、前記設問で「一度だけある」と「複数回ある」と回答した251件を対象に、設問66から71までは業務の改善・工夫に取り組んだところへのその理由を尋ねたものである。項目別の取り組み状況を表11と図17、項目毎の取り組んだ理由を表12と図18に示した。

表11 業務改善・工夫への取り組み内容 (複数選択)

n=251

項目	件数	パーセント
設問66 職員や入所児童の登降所等の管理業務	94	37.5
設問67 保育料や保育所行事参加費等の徴収業務	66	26.3
設問68 職員の給与や賞与等の計算業務	76	30.3
設問69 保護者への連絡業務	136	54.2
設問70 保育計画の立案業務	138	55.0
設問71 行事等の計画・実施業務	146	58.2

図17 業務改善・工夫への取り組み内容（複数選択）

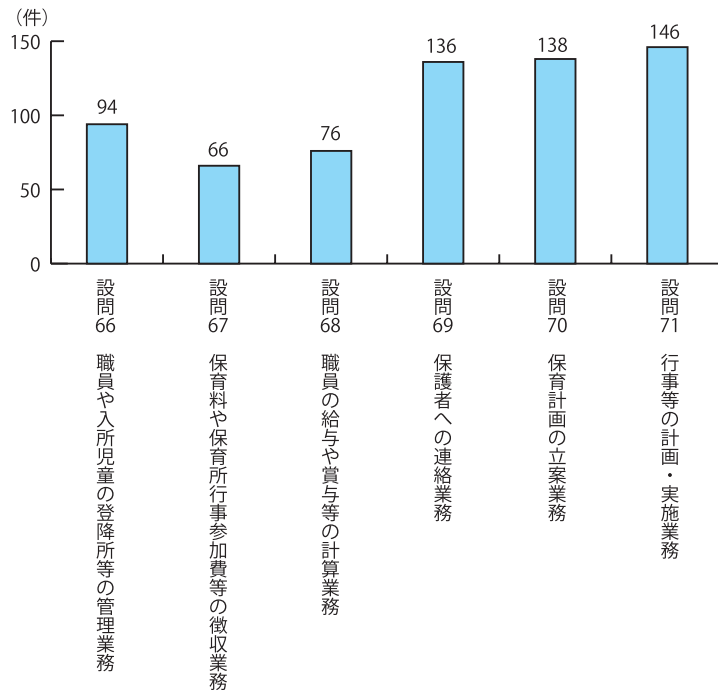
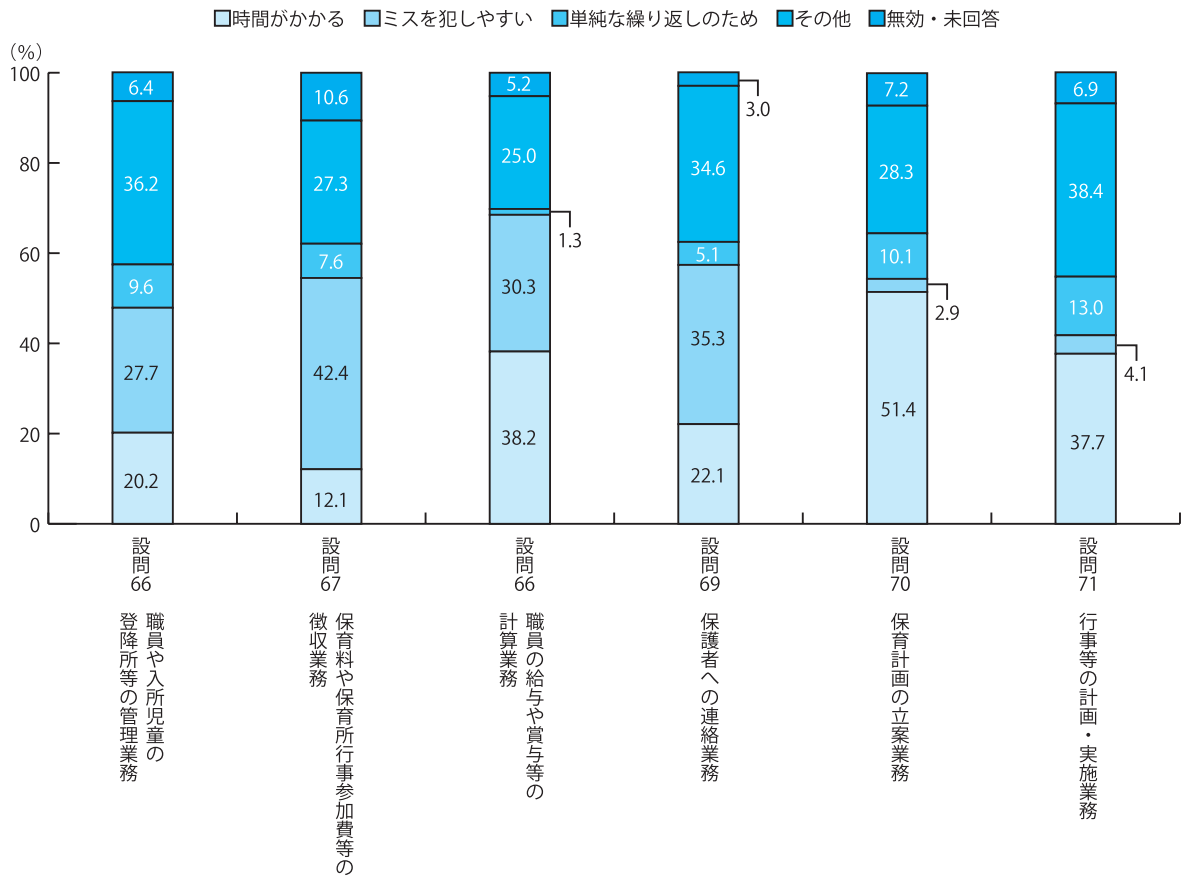


表12 業務改善・工夫への取り組みが必要な理由

項目	時間がかかる	ミスを犯しやすい	単純な繰り返しのため	その他	無効未回答
設問66 職員や入所児童の登降所等の管理業務	19 (20.2)	26 (27.7)	9 (9.6)	34 (36.2)	6 (6.4)
設問67 保育料や保育所行事参加費等の徴収業務	8 (12.1)	28 (42.4)	5 (7.6)	18 (27.3)	7 (10.6)
設問68 職員の給与や賞与等の計算業務	29 (38.2)	23 (30.3)	1 (1.3)	19 (25.0)	4 (5.2)
設問69 保護者への連絡業務	30 (22.1)	48 (35.3)	7 (5.1)	47 (34.6)	4 (3.0)
設問70 保育計画の立案業務	71 (51.4)	4 (2.9)	14 (10.1)	39 (28.3)	10 (7.2)
設問71 行事等の計画・実施業務	55 (37.7)	6 (4.1)	19 (13.0)	56 (38.4)	10 (6.9)

図18 業務改善・工夫への取り組み理由



もっとも行われていたのは、設問71の行事（年・月・季節）等の計画・実施業務であり、次いで設問70の保育計画（年・月・週・日）の立案業務だった。この二つが他を大きく引き離していた。設問72の自由記述には48件の回答があった。（その分析については本書92ページ参照）

設問73からは、これまでに業務の改善・工夫に取り組んだことがないところへの質問（対象者数79件）であり、項目は設問66から設問71までと同一のものとなっている。改善・工夫の必要があると考えられる業務を表13および図19、その理由を表14と図20に示した。

表13 業務改善・工夫への取り組み内容（複数選択）

n=79

項目	件数	パーセント
設問73 職員や入所児童の登降所等の管理業務	8	10.1
設問74 保育料や保育所行事参加費等の徴収業務	10	12.7
設問75 職員の給与や賞与等の計算業務	5	6.3
設問76 保護者への連絡業務	7	8.9
設問77 保育計画の立案業務	22	27.8
設問78 行事等の計画・実施業務	22	27.8

図19 業務改善・工夫への取り組みが必要な業務（複数選択）

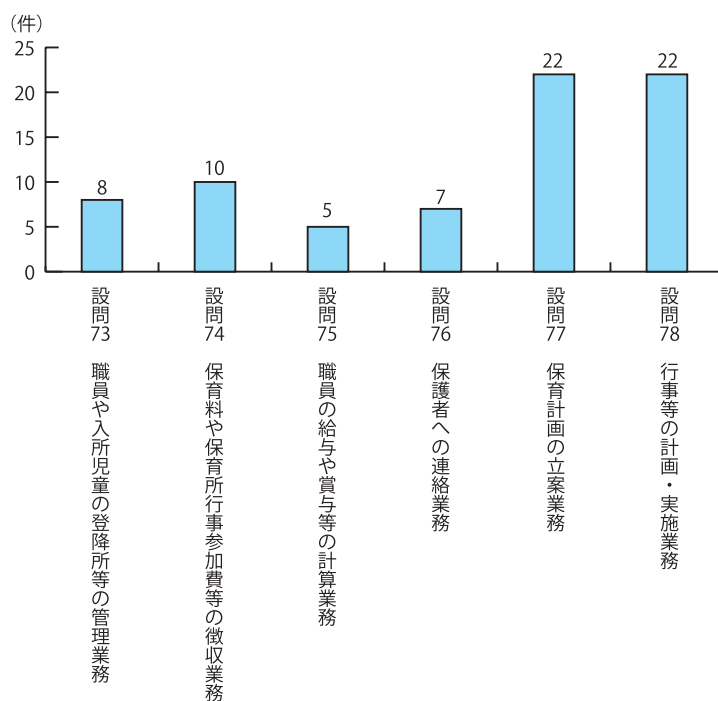
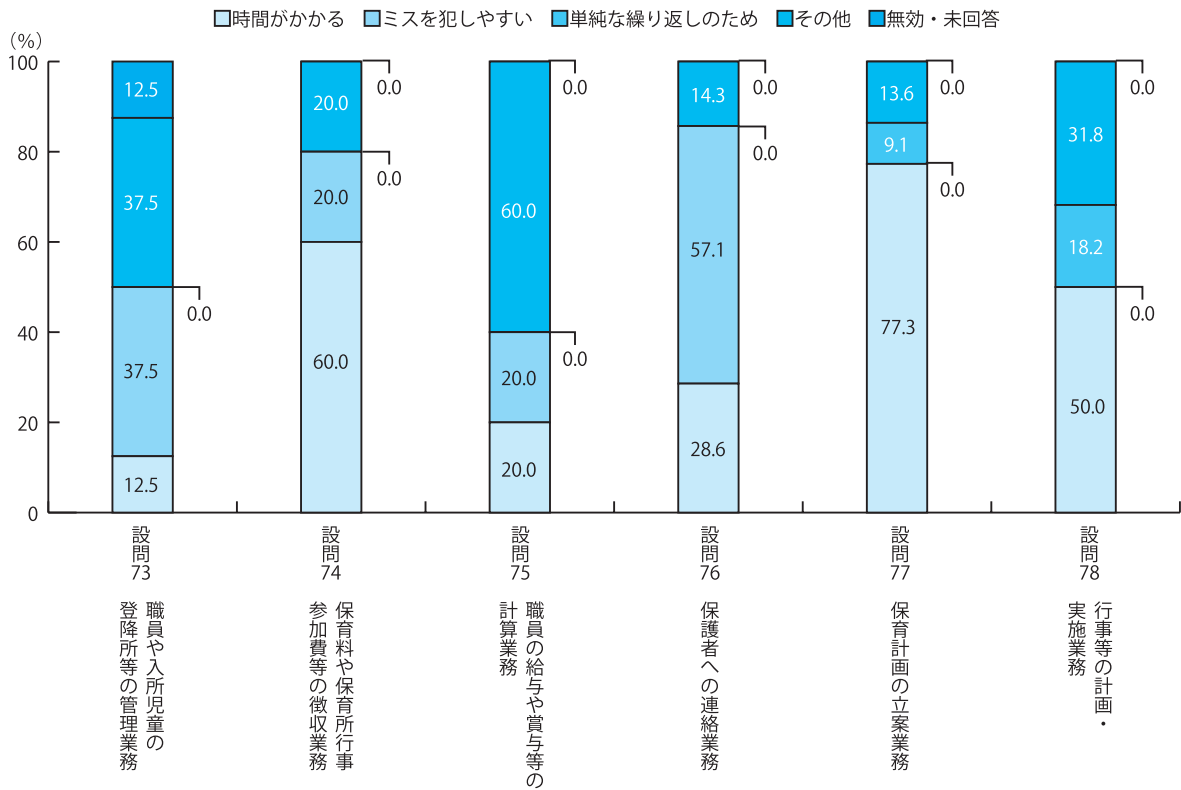


表14 業務改善・工夫への取り組みが必要な理由

項目	時間がかかる	ミスを犯しやすい	単純な繰り返しのため	その他	無効未回答
設問73 職員や入所児童の登降所等の管理業務	1 (12.5)	3 (37.5)	0 (0.0)	3 (37.5)	1 (12.5)
設問74 保育料や保育所行事参加費等の徴収業務	6 (60.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	2 (20.0)	0 (0.0)
設問75 職員の給与や賞与等の計算業務	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	3 (60.0)	0 (0.0)
設問76 保護者への連絡業務	2 (28.6)	4 (57.1)	0 (0.0)	1 (14.3)	0 (0.0)
設問77 保育計画の立案業務	17 (77.3)	0 (0.0)	2 (9.1)	3 (13.6)	0 (0.0)
設問78 行事等の計画・実施業務	11 (50.0)	0 (0.0)	4 (18.2)	7 (31.8)	0 (0.0)

図20 業務改善・工夫への取り組みが必要な理由



業務の改善・工夫の必要性が感じられたのが、設問75の職員の給与や賞与の計算業務、設問74の保育料や保育所行事参加費等の徴収業務、設問73の職員や入所児童の登降所等の管理業務であり、ほぼ同数だった。こうした問題が解決できて、行事（年・月・季節）等の計画・実施業務であり、設問70の保育計画（年・月・週・日）の立案業務に着手できるということだと考えられる。

(7) 調査票V 保育所長の職について (参照：97ページ)

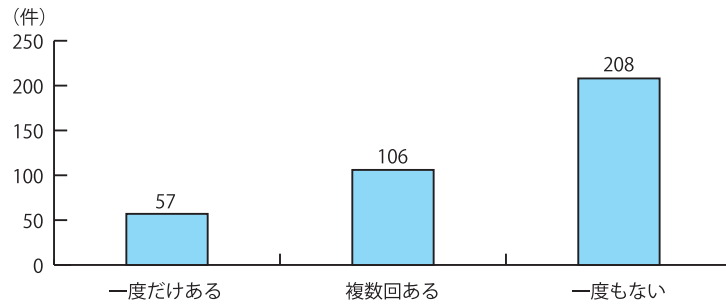
設問80 保育所長を辞めようと思ったかどうかについての結果は、表15と図21に示したように、過半数の208件（54.6%）は辞めようと思ったことはないということだった。

表15 保育所長職を辞めようと思ったことがあるか

n=381

項目	件数	パーセント
一度だけある	57	15.0
複数回ある	106	27.8
一度もない	208	54.6
未回答	10	2.6
合計	381	100.0

図21 保育所長を辞めようと思ったことがあるか



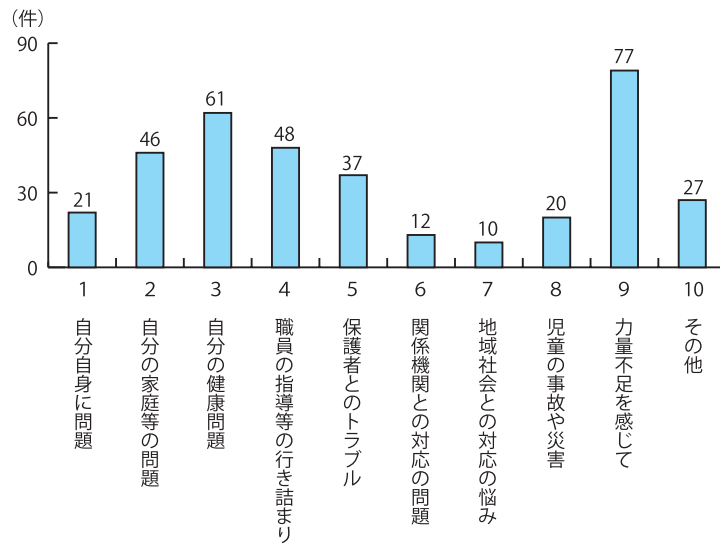
設問81は、設問80に対して所長を辞めようと思ったことがある方に対して、その理由を尋ねた。選択肢のそれぞれの結果については、表16と図22に示した。

表16 保育所長職を辞めようと思った理由（複数回答）

n=173

項目	件数	パーセント
1 自分自身に問題	21	12.9
2 自分の家庭等の問題	46	28.2
3 自分の健康問題	61	37.4
4 職員の指導等の行き詰まり	48	29.4
5 保護者とのトラブル	37	22.7
6 関係機関との対応の問題	12	7.4
7 地域社会との対応の悩み	10	6.1
8 児童の事故や災害	20	12.3
9 力量不足を感じて	77	47.2
10 その他	27	16.6
合計	359	—

図22 保育所長職を辞めようと思った理由（複数回答）



群を抜いて多いのが「9 貴保育所の所長として自分の力量不足を感じた時」（全回答163件に対して77件（47.2%）、以下同様）であり、「3 自分の健康に自信を無くした時」（61件（37.4%））、「4 職員の指導に行き詰った時（保育士間のトラブルに巻き込まれた時）」（48件（29.4%））だった。職員の指導への行き詰まりも、力量不足のひとつの形態と考えられるので、保育所長の辞任は力量不足や健康問題が大きな要因ということが回答結果から浮き彫りになった。

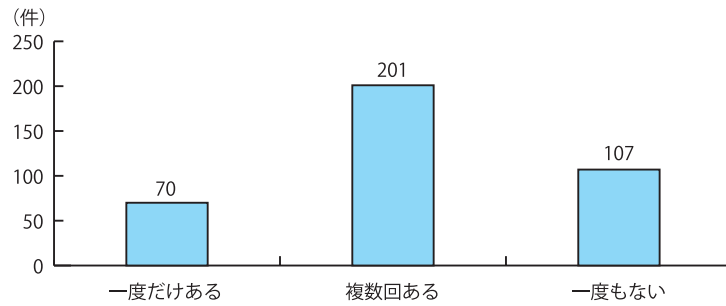
（8）調査票VI 保育士の職について（参照：103ページ）

設問82 保育所において部下である保育士から退職の相談を受けたことがあるかどうかの質問について、表17と図23に示したように70%を超える保育所長が保育士の退職に関する相談経験があることが明らかになった。

表17 保育士から退職の相談を受けたことがあるか n=381

項目	件数	パーセント
一度だけある	70	18.4
複数回ある	201	52.8
一度もない	107	28.1
未回答	3	0.8
合計	381	100.0

図23 保育士から退職の相談を受けたことがあるか



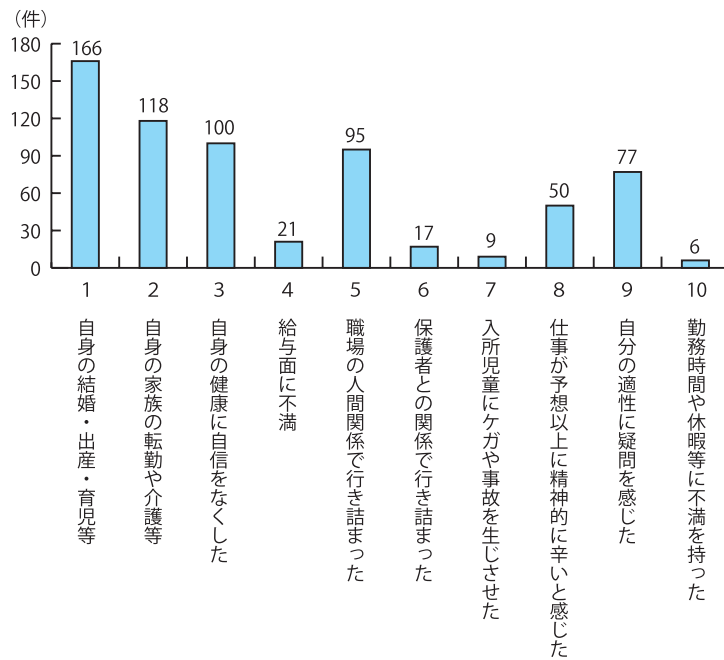
設問84は、退職の相談を受けたときの理由を尋ねたもので、各項目（1～10）に対する回答結果は、表18と図24に示した。

表18 退職の相談を受けた保育士の理由（複数回答）

n=271

項目	件数	パーセント
1 自身の結婚・出産・育児等	166	61.3
2 自身の家族の転勤や介護等	118	43.5
3 自身の健康に自身をなくした	100	36.9
4 給与面に不満	21	7.7
5 職場の人間関係で行き詰まった	95	35.1
6 保護者との関係で行き詰まった	17	6.3
7 入所児童にケガや事故を生じさせた	9	3.3
8 仕事が予想以上に精神的に辛いと感じた	50	18.5
9 自分の適性に疑問を感じた	77	28.4
10 勤務時間や休暇等に不満を持った	6	2.2
合計	659	—

図24 退職の相談を受けた保育士の理由（複数回答）



上位3つは、「1 自身に結婚・出産・育児等の問題が起きた時」（全回答271件に対して166件（61.3%）、以下同様）、「2 自身の家庭・家族に転勤や介護等の問題が起きた時」（118件（43.5%））、「自身の健康に自信を無くした時」（100件（36.9%））だった。注目すべきは「4 給与面に不満を持った時」（21件（7.7%））である。保育士の退職理由は、給与のような経済的側面だけでなく結婚、妊娠、出産、転勤、健康等プライベートな事態が契機になっていることを示している。

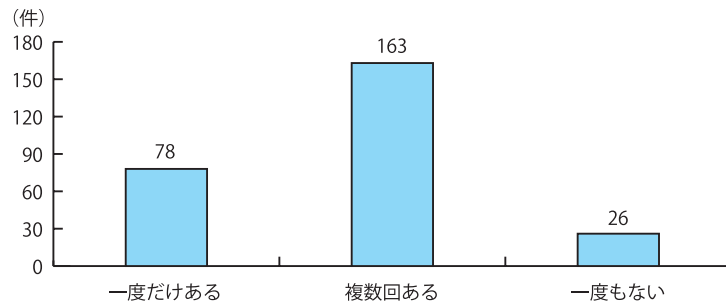
設問84は、退職を希望する保育士に対して慰留した経験を尋ねた。表19と図25に示したように、約88%の保育所長は保育士の辞職を思い留ませようとした経験があるという結果になった。

表19 退職希望の保育士への説得

n=381

項目	件数	パーセント
一度だけある	78	28.8
複数回ある	163	60.1
一度もない	26	9.6
未回答	4	1.5
合計	381	100.0

図25 退職希望の保育士への説得



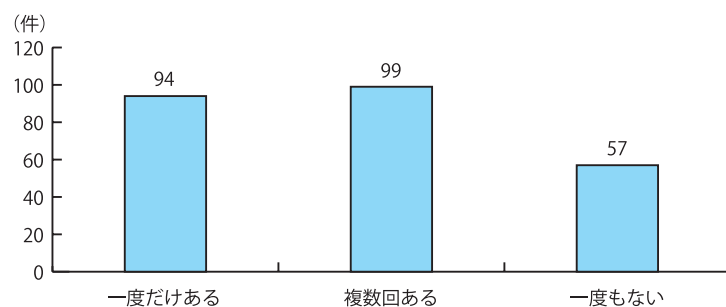
設問85は、保育所長の慰留で保育士が退職を思い留まったかどうかの設問である。約70%の保育所長から慰留により思いとどまったことがあるとの回答を得た（表20、図26）。

表20 説得により保育士が退職を思いとどまったか

n=271

項目	件数	パーセント
思いとどまったことが一度だけある	94	34.7
思いとどまったことが複数回ある	99	36.5
思いとどまったことは一度もない	57	21.0
未回答	21	7.7
合計	271	100.0

図26 説得により保育士が退職を思いとどまったか



(9) 調査票Ⅶ 現在の貴保育所に対する総合的な満足度（参照：109ページ）

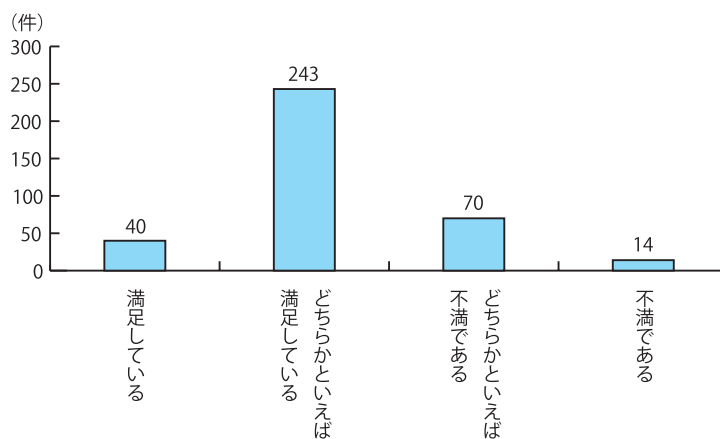
設問86は、保育所長職に対する満足度を尋ねたもので、表21と図27に示したように約74%が満足ないしどちらかといえば満足であった。もっともこのことは約4分の1の保育所長は満足感を得られないまま業務を遂行していることになる。

表21 保育所長としての仕事の満足度

n=381

項目	件数	パーセント
満足している	40	10.5
どちらかといえば満足している	243	63.8
どちらかといえば不満である	70	18.4
不満である	14	3.7
未回答	14	3.7
合計	381	100

図27 保育所長としての仕事の満足度



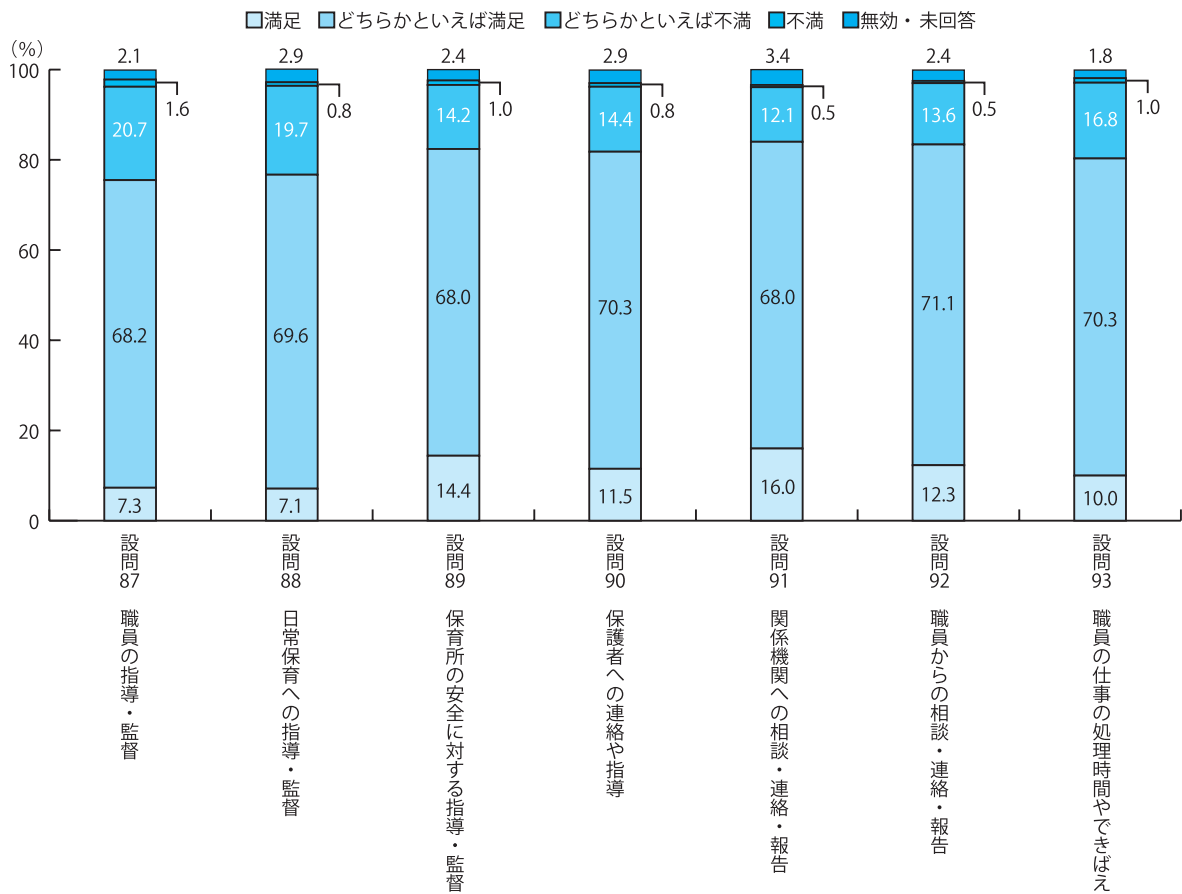
さらに設問87から設問93において、その背景を探った。各問に対する結果は表22と図28に示した。

表22 保育所関係者に対する指導・監督等の満足度

n=381

項目	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無効未回答
設問87 職員の指導・監督	28 (7.3)	260 (68.2)	79 (20.7)	6 (1.6)	8 (2.1)
設問88 日常保育への指導・監督	27 (7.1)	265 (69.6)	75 (19.7)	3 (0.8)	11 (2.9)
設問89 保育所の安全に対する指導・監督	55 (14.4)	259 (68.0)	54 (14.2)	4 (1.0)	9 (2.4)
設問90 保護者への連絡や指導	44 (11.5)	268 (70.3)	55 (14.4)	3 (0.8)	11 (2.9)
設問91 関係機関への相談・連絡・報告	61 (16.0)	259 (68.0)	46 (12.1)	2 (0.5)	13 (3.4)
設問92 職員からの相談・連絡・報告	47 (12.3)	271 (71.1)	52 (13.6)	2 (0.5)	9 (2.4)
設問93 職員の仕事の処理時間やできばえ	38 (10.0)	268 (70.3)	64 (16.8)	4 (1.0)	7 (1.8)

図28 保育所関係者に対する指導・監督等の満足度



保育所長が不満ないしどちらかといえば不満を感じるのは、「87 職員への指導・監督を行ったことによる成果」、「88 日常保育への指導・監督を行ったことによる成果」、「93 職員の仕事の処理時間やできばえ」ということになった。

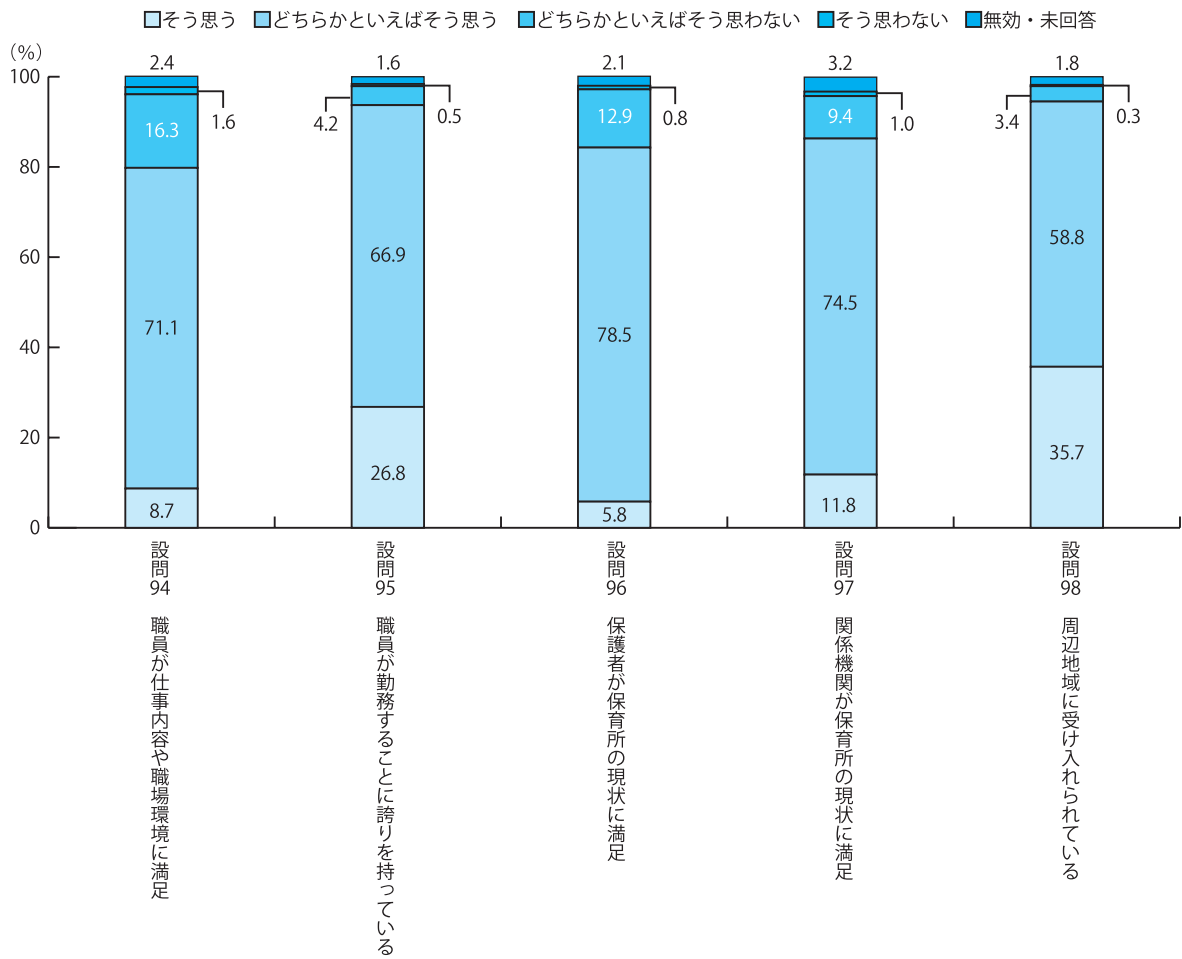
つぎは設問94から設問98まで、保育所関係者の満足度についてである。表23と図29にその結果をまとめた。

表23 保育所の各関係者の満足度

n=381

項目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無効 未回答
設問94 職員が仕事内容や職場環境に満足	33 (8.7)	271 (71.1)	62 (16.3)	6 (1.6)	9 (2.4)
設問95 職員が勤務することに誇りを持っている	102 (26.8)	255 (66.9)	16 (4.2)	2 (0.5)	6 (1.6)
設問96 保護者が保育所の現状に満足	22 (5.8)	299 (78.5)	49 (12.9)	3 (0.8)	8 (2.1)
設問97 関係機関が保育所の現状に満足	45 (11.8)	284 (74.5)	36 (9.4)	4 (1.0)	12 (3.2)
設問98 周辺地域に受け入れられている	136 (35.7)	224 (58.8)	13 (3.4)	1 (0.3)	7 (1.8)

図29 保育所の各関係者の満足度



満足度が高かったのは、設問98にある「周辺地域に受け入れられている」「満足していると思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせて360件（94.5%）以下同様)、設問95の「職員が保育所に勤務することに誇りを持っている」（357件（93.7%）)、設問97の「関係機関が保育所の現状に十分満足」（329件（86.3%））の順であった。保育所長の奮闘により保育所一丸となって保育を介し地域に貢献している様子が浮き彫りとなった。

(10) 調査票Ⅷ その他

設問99の自由記述に関しては、101件の回答があった。（その分析については本書127ページ参照）

4. 保育士編

(1) 回答者

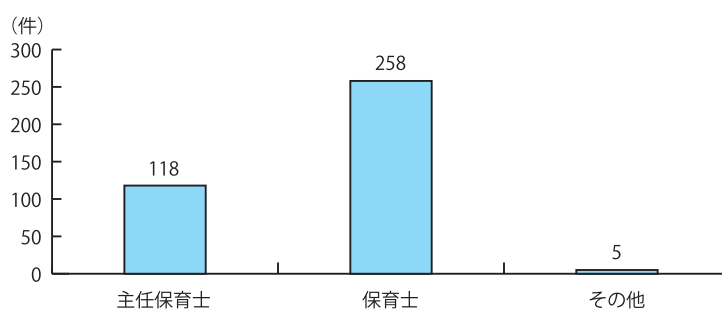
郵送法による調査で返送された381件の回答者は、主任保育士118件（31.0%）、保育士が258件（67.7%）、その他5件（1.3%）だった（表1と図1）。

表1 保育士編の回答者

n=381

項目	件数	パーセント
主任保育士	118	31.0
保育士	258	67.7
その他	5	1.3
合計	381	100.0

図1 保育士の回答者



(2) 通算経験年数

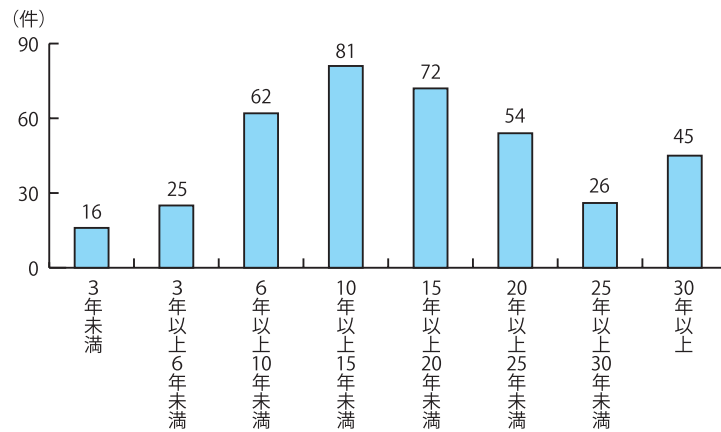
保育士としての経験年数は、10年以上15年未満が最も多く81件（21.3%）、15年以上20年未満72件（18.9%）、6年以上10年未満62件（16.3%）が続いた。他の結果と合わせてクラス担任の保育士は保育士経験が正味6年以上ある方によって担われていることがわかる（表2と図2）。

表2 保育士経験年数

n=381

項目	件数	パーセント
3年未満	16	4.2
3年以上6年未満	25	6.6
6年以上10年未満	62	16.3
10年以上15年未満	81	21.3
15年以上20年未満	72	18.9
20年以上25年未満	54	14.2
25年以上30年未満	26	6.8
30年以上	45	11.8
合計	381	100.0

図2 保育士経験年数



(3) 調査票Ⅰ あなた自身のことについて

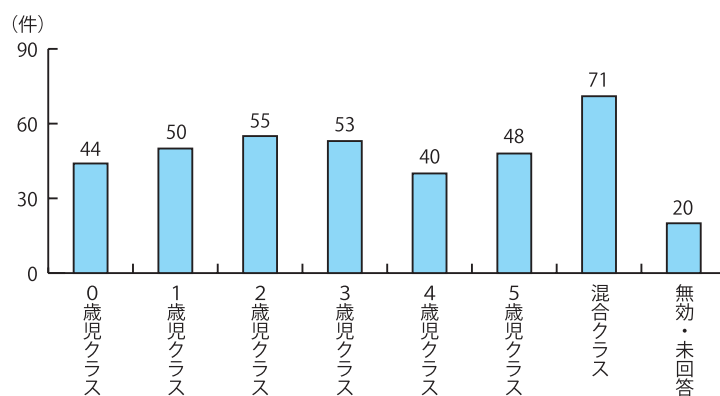
設問1は、担当クラスについての調査である。混合クラスの最多だったが、表3と図3で示したように他の0歳児クラスから5歳児クラスまではほぼ同様だった。

表3 担当クラス

n=381

項目	件数	パーセント
0歳児クラス	44	11.5
1歳児クラス	50	13.1
2歳児クラス	55	14.4
3歳児クラス	53	13.9
4歳児クラス	40	10.5
5歳児クラス	48	12.6
混合クラス	71	18.6
無効・未回答	20	5.2
合計	381	100

図3 担当クラス



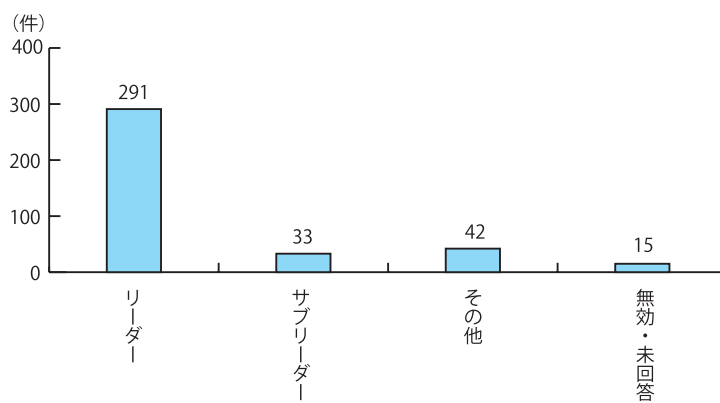
設問2 クラスでの役割分担は、約80%がリーダーだった (表4と図4)。

表4 クラスでの役割分担

n=381

項目	件数	パーセント
リーダー	291	76.4
サブリーダー	33	8.7
その他	42	11.0
無効・未回答	15	4.0
合計	381	100.0

図4 クラスでの役割分担



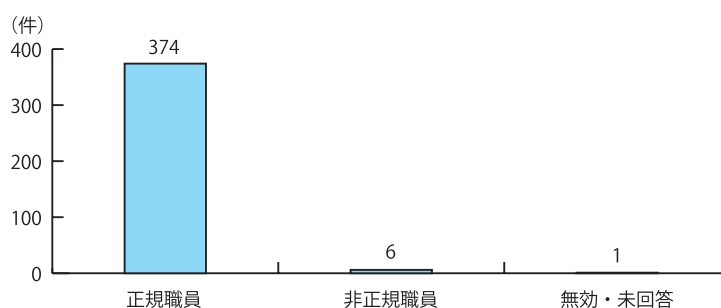
また、設問3 就業（雇用）形態は100%近く正規職員だった（表5と図5）。

表5 就業（雇用）形態

n=381

項目	件数	パーセント
正規職員	374	98.2
非正規職員	6	1.6
無効・未回答	1	0.3
合計	381	100.0

図5 就業（雇用）形態



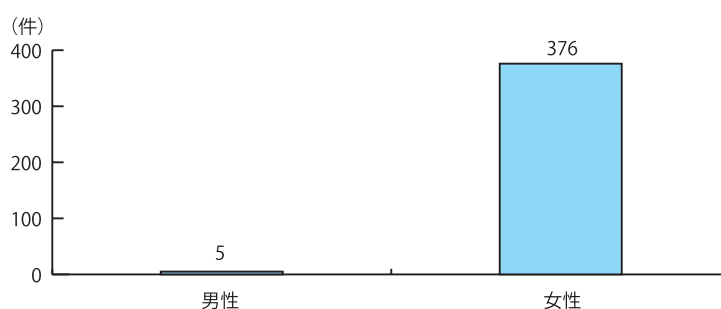
設問4の性別は回答件数381件の内、男性はわずか5件（1.3%）で、圧倒的に女性が占める職場であるといえる（表6と図6）。

表6 性別

n=381

項目	件数	パーセント
男性	5	1.3
女性	376	98.7
合計	381	100.0

図6 性別



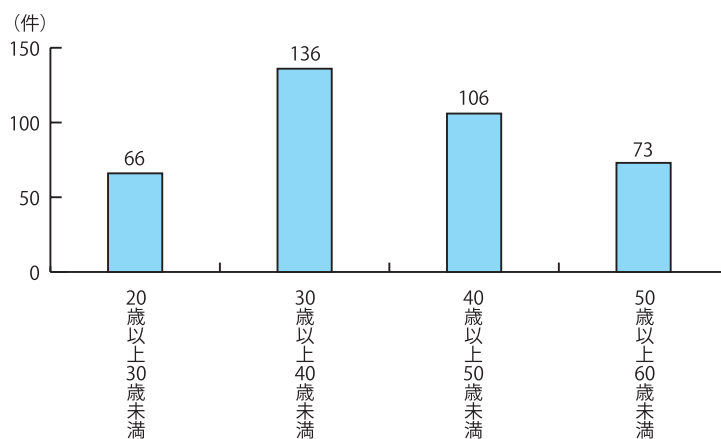
また、年齢は表7と図7に示したように最多は30歳以上40歳未満（136件、35.7%）、続いて40歳以上50歳未満（106件、27.8%）、50歳以上60歳未満（73件、19.2%）だった。

表7 年齢

n=381

項目	件数	パーセント
20歳以上30歳未満	66	17.3
30歳以上40歳未満	136	35.7
40歳以上50歳未満	106	27.8
50歳以上60歳未満	73	19.2
60歳以上	0	0
合計	381	100.0

図7 年齢



(4) 調査票Ⅱ 保育所の職場環境に対する評価（参照：79ページ）

設問「6 貴保育所では、保育理念等に基づく独自のカリキュラムを生み出そうとしていますか」から設問「33 あなたは、貴保育所の方針を職員に周知していますか」までのそれぞれの回答を表8と図8にまとめた。

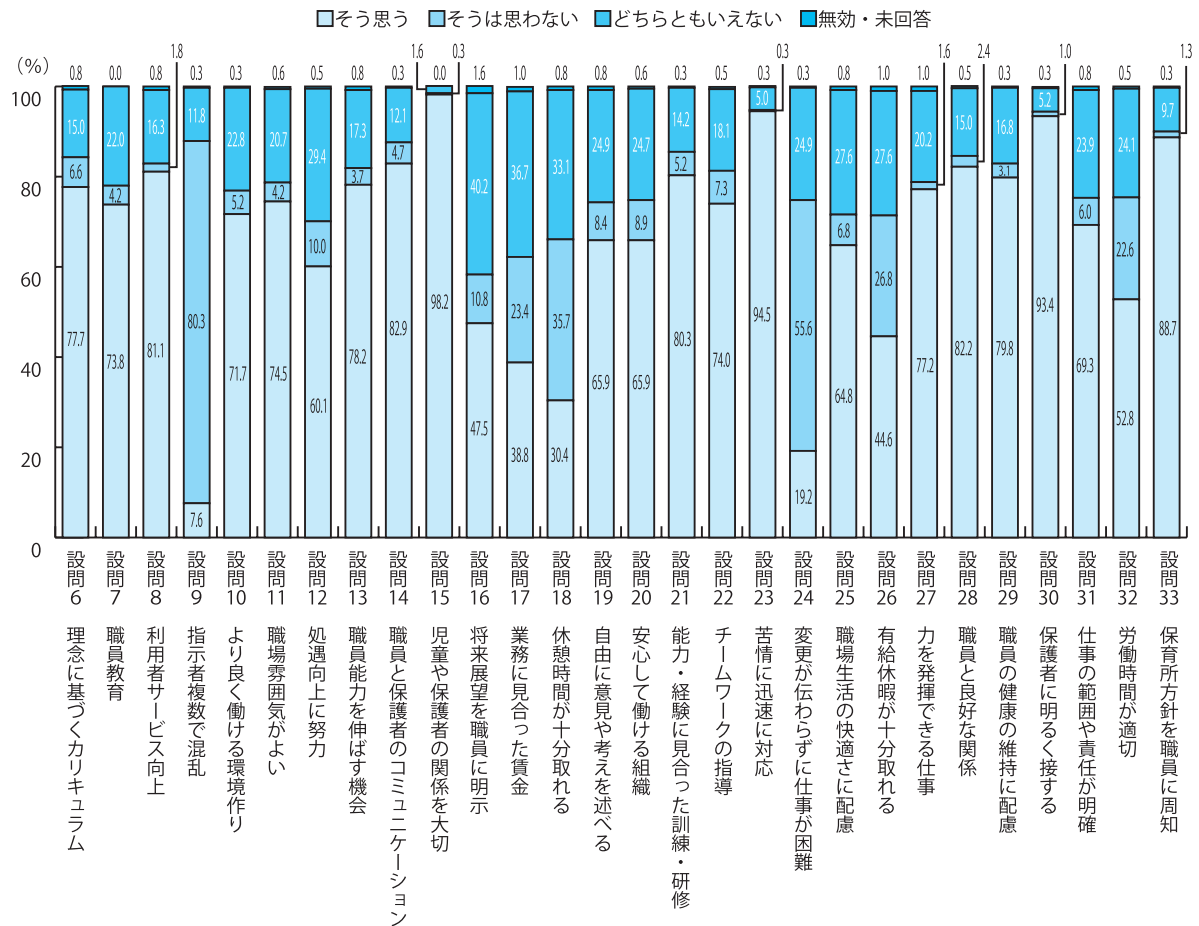
表8 保育所の職場環境に対する評価（設問6から33）

n=381

項目	そう思う	そうは 思わない	どちらともい えない	無効 未回答	合計
設問6 理念に基づくカリキュラム	296 (77.7)	25 (6.6)	57 (15.0)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問7 職員教育	281 (73.8)	16 (4.2)	84 (22.0)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問8 利用者サービス向上	309 (81.1)	7 (1.8)	62 (16.3)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問9 指示者複数で混乱	29 (7.6)	306 (80.3)	45 (11.8)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問10 より良く働ける環境作り	273 (71.7)	20 (5.2)	87 (22.8)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問11 職場雰囲気が良い	284 (74.5)	16 (4.2)	79 (20.7)	2 (0.6)	381 (100.0)
設問12 処遇向上に努力	229 (60.1)	38 (10.0)	112 (29.4)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問13 職員能力を伸ばす機会	298 (78.2)	14 (3.7)	66 (17.3)	3 (0.8)	381 (100.0)

設問14	職員と保護者のコミュニケーション	316 (82.9)	18 (4.7)	46 (12.1)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問15	児童や保護者の関係を大切	374 (98.2)	1 (0.3)	6 (1.6)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問16	将来展望を職員に明示	181 (47.5)	41 (10.8)	153 (40.2)	6 (1.6)	381 (100.0)
設問17	業務に見合った賃金	148 (38.8)	89 (23.4)	140 (36.7)	4 (1.0)	381 (100.0)
設問18	休憩時間が十分取れる	116 (30.4)	136 (35.7)	126 (33.1)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問19	自由に意見や考えを述べる	251 (65.9)	32 (8.4)	95 (24.9)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問20	安心して働ける組織	251 (65.9)	34 (8.9)	94 (24.7)	2 (0.6)	381 (100.0)
設問21	能力・経験に見合った訓練・研修	306 (80.3)	20 (5.2)	54 (14.2)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問22	チームワークの指導	282 (74.0)	28 (7.3)	69 (18.1)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問23	苦情に迅速に対応	360 (94.5)	1 (0.3)	19 (5.0)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問24	変更が伝わらずに仕事が困難	73 (19.2)	212 (55.6)	95 (24.9)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問25	職場生活の快適さに配慮	247 (64.8)	26 (6.8)	105 (27.6)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問26	有給休暇が十分取れる	170 (44.6)	102 (26.8)	105 (27.6)	4 (1.0)	381 (100.0)
設問27	力を発揮できる仕事	294 (77.2)	6 (1.6)	77 (20.2)	4 (1.0)	381 (100.0)
設問28	職員と良好な関係	313 (82.2)	9 (2.4)	57 (15.0)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問29	職員の健康の維持に配慮	304 (79.8)	12 (3.1)	64 (16.8)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問30	保護者に明るく接する	356 (93.4)	4 (1.0)	20 (5.2)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問31	仕事の範囲や責任が明確	264 (69.3)	23 (6.0)	91 (23.9)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問32	労働時間が適切	201 (52.8)	86 (22.6)	92 (24.1)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問33	保育所方針を職員に周知	338 (88.7)	5 (1.3)	37 (9.7)	1 (0.3)	381 (100.0)

図8 保育所の職場環境に対する評価（設問6から33）



「そう思う」の回答が90%を超えた設問は、

- 15 貴保育所では、入所児童や保護者との関係を大切にしていますか 374件 (98.2%)
- 23 あなたは、保護者等の苦情に迅速に対応できるように努力していますか 360件 (94.5%)
- 30 あなたは、入所児童の保護者に対し、明るくハキハキと接していますか 356件 (93.4%)

次いで

- 33 あなたは、貴保育所の方針を職員に周知していますか 338件 (88.7%)
- 14 あなたは、職員と保護者とのコミュニケーションが円滑に進むように配慮していますか 316件 (82.9%)
- 28 あなたは、他の職員と良好な関係で働いていますか 313件 (82.2%)

が挙げられる。

これらをまとめると、保育士も保育所長と同様に保育所の職場環境について、入所児童や保護者との関係を大切に、保護者等の苦情に迅速に対応できるように努力しつつ、明るくハキハキと接する。続いては、保育所長と異なり保育所の方針を周知して、職員と保護者とのコミュニケーションが円滑に進むように配慮し、他の職員と良好な関係で働いている。ということになる。

また、「そう思わない」の回答が多かった上位3つは、

- 9 貴保育所では、仕事の指示をする人が何人もいて、誰の指示に従えばよいのか困ることがありますか 306件 (80.3%)
- 24 貴保育所では、計画等の変更がすぐに伝わらないために、仕事がやりにくくなることがありますか 212件 (55.6%)
- 18 貴保育所では、休憩時間を十分に取ることができますか 136件 (35.7%)

だった。

このことは、保育所長の場合と同様に、保育所内での指揮系統は確立し業務に混乱を起こすことはほとんどないが、休憩時間に関しては十分に取れていないと感じる職員が少なくないということになる。

(5) 調査票Ⅲ 保育士の業務への負担感に対する評価 (参照：83ページ)

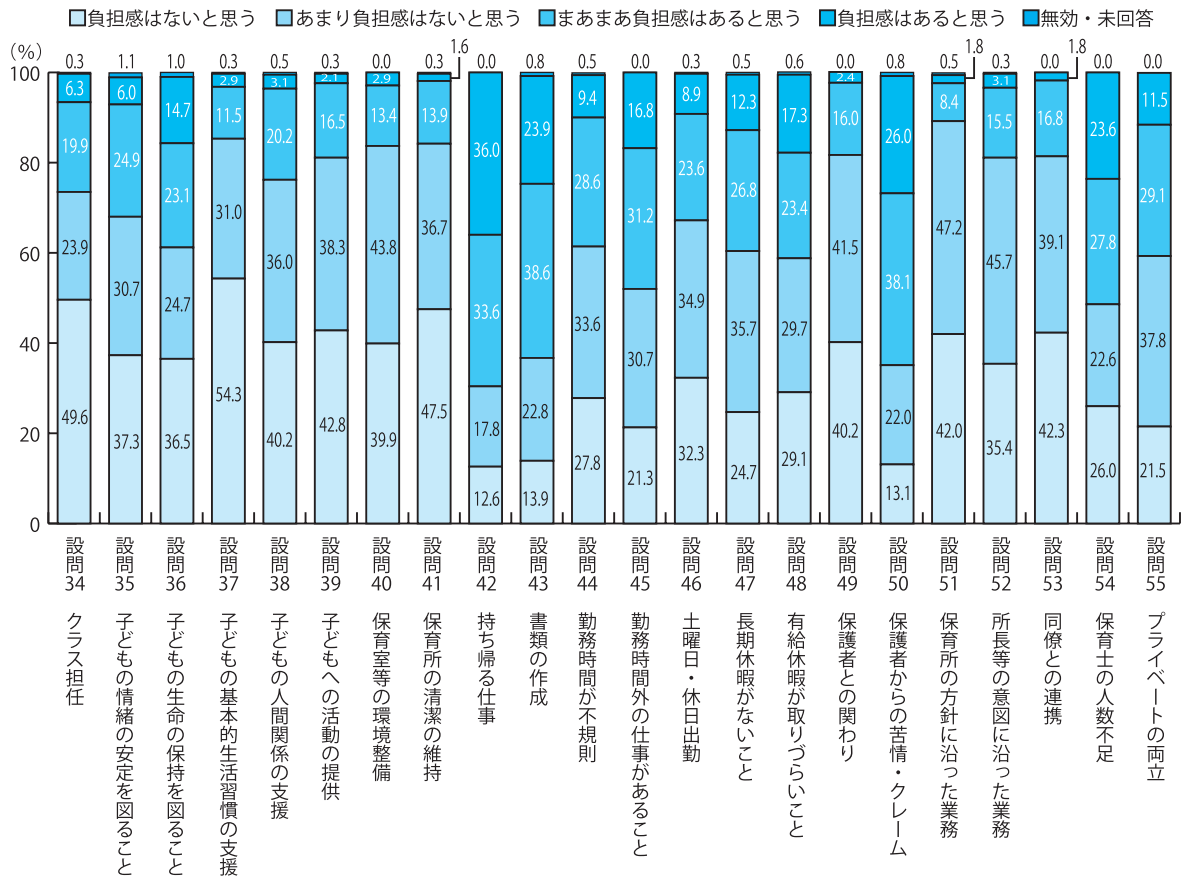
設問34「クラス担任をすること」から設問55「保育士自身のプライベートと両立させること」までのそれぞれの回答を表9と図9にまとめた。

表9 保育士の業務への負担感に対する評価（設問34から55）

n=381

項目	負担感はないと思う	あまり負担感はないと思う	まあまあ負担感はあると思う	負担感はあると思う	無効未回答	合計
設問34 クラス担任	189 (49.6)	91 (23.9)	76 (19.9)	24 (6.3)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問35 子どもの情緒の安定を図ること	142 (37.3)	117 (30.7)	95 (24.9)	23 (6.0)	4 (1.1)	381 (100.0)
設問36 子どもの生命の保持を図ること	139 (36.5)	94 (24.7)	88 (23.1)	56 (14.7)	4 (1.0)	381 (100.0)
設問37 子どもの基本的生活習慣の支援	207 (54.3)	118 (31.0)	44 (11.5)	11 (2.9)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問38 子どもの人間関係の支援	153 (40.2)	137 (36.0)	77 (20.2)	12 (3.1)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問39 子どもへの活動の提供	163 (42.8)	146 (38.3)	63 (16.5)	8 (2.1)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問40 保育室等の環境整備	152 (39.9)	167 (43.8)	51 (13.4)	11 (2.9)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問41 保育所の清潔の維持	181 (47.5)	140 (36.7)	53 (13.9)	6 (1.6)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問42 持ち帰る仕事	48 (12.6)	68 (17.8)	128 (33.6)	137 (36.0)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問43 書類の作成	53 (13.9)	87 (22.8)	147 (38.6)	91 (23.9)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問44 勤務時間が不規則	106 (27.8)	128 (33.6)	109 (28.6)	36 (9.4)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問45 勤務時間外の仕事があること	81 (21.3)	117 (30.7)	119 (31.2)	64 (16.8)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問46 土曜日・休日出勤	123 (32.3)	133 (34.9)	90 (23.6)	34 (8.9)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問47 長期休暇がないこと	94 (24.7)	136 (35.7)	102 (26.8)	47 (12.3)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問48 有給休暇が取りづらいこと	111 (29.1)	113 (29.7)	89 (23.4)	66 (17.3)	2 (0.6)	381 (100.0)
設問49 保護者との関わり	153 (40.2)	158 (41.5)	61 (16.0)	9 (2.4)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問50 保護者からの苦情・クレーム	50 (13.1)	84 (22.0)	145 (38.1)	99 (26.0)	3 (0.8)	381 (100.0)
設問51 保育所の方針に沿った業務	160 (42.0)	180 (47.2)	32 (8.4)	7 (1.8)	2 (0.5)	381 (100.0)
設問52 所長等の意図に沿った業務	135 (35.4)	174 (45.7)	59 (15.5)	12 (3.1)	1 (0.3)	381 (100.0)
設問53 同僚との連携	161 (42.3)	149 (39.1)	64 (16.8)	7 (1.8)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問54 保育士の人数不足	99 (26.0)	86 (22.6)	106 (27.8)	90 (23.6)	0 (0.0)	381 (100.0)
設問55 プライベートの両立	82 (21.5)	144 (37.8)	111 (29.1)	44 (11.5)	0 (0.0)	381 (100.0)

図9 保育士の業務への負担感に対する評価（設問34から55）



これらの内、業務改善を考える上で重要な「負担感はあると思う」「まあまあ負担感はあると思う」を50%以上の保育士が感じたものは以下の4項目だった。

- 42 家に持ち帰らなければならない仕事があること 負担感ある137件 (36.0%)、まあまあある128件 (33.6%)、合計265件 (69.6%)
- 50 保護者からの苦情・クレーム等の対応 負担感ある99件 (26.0%)、まあまあある145件 (38.1%)、合計244件 (64.1%)
- 43 指導計画等の書類を作成すること 負担感ある91件 (23.9%)、まあまあある147件 (38.6%)、合計238件 (62.5%)
- 54 保育士の人数が不足していること 負担感ある90件 (23.6%)、まあまあある106件 (27.8%)、合計196件 (51.4%)

このように家の持ち帰ってこなさなければならない仕事を日常的に抱えていること、保護者からの苦情（恐らくは無理難題のような事柄も含めて）や指導計画等の書類の作成が求められていることが大きな問題点、解決すべき課題として浮かび上がってくる。それは、保育士の絶対数が不足していること、つまり、マンパワーで解決できる可能性があることも示している。

(6) 調査票Ⅳ 保育所業務の改善・工夫 (参照：94ページ)

設問56から61までは業務の改善・工夫の具体的内容を尋ねたものである。結果を表10と図10、「改善の必要があり」の理由を表11と図11に示した。

表10 業務改善・工夫への取り組み（「必要あり」の回答のみ）

n=381

項目	件数	パーセント
設問56 職員や入所児童の登降所等の管理業務	39	10.2
設問57 保育料や保育所行事参加費等の徴収業務	33	8.7
設問58 職員の給与や賞与等の計算業務	31	8.1
設問59 保護者への連絡業務	48	12.6
設問60 保育計画の立案業務	114	29.9
設問61 行事等の計画・実施業務	103	27.0

図10 業務改善・工夫への取り組み（「必要あり」の回答のみ）

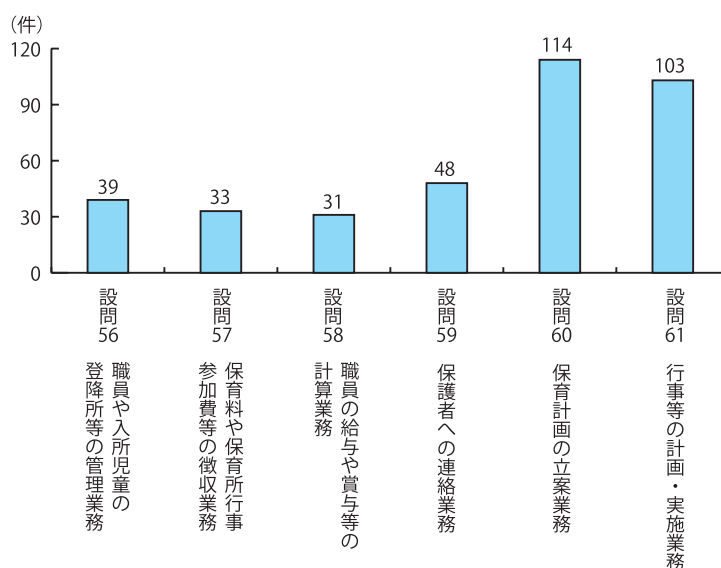
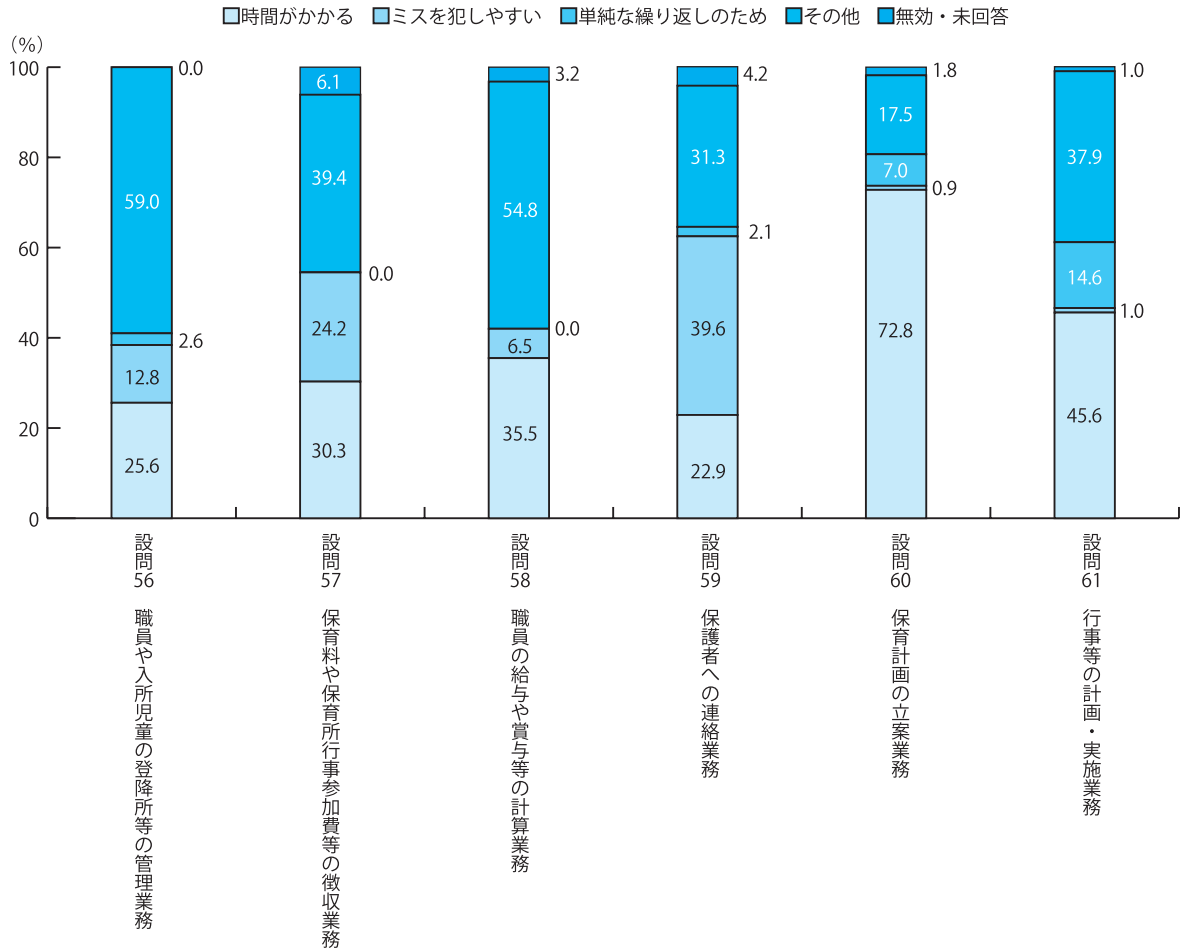


表11 業務改善・工夫への必要な理由

項目	時間がかかる	ミスを犯しやすい	単純な繰り返しのため	その他	無効未回答
設問56 職員や入所児童の登降所等の管理業務	10 (25.6)	5 (12.8)	1 (2.6)	23 (59.0)	0 (0.0)
設問57 保育料や保育所行事参加費等の徴収業務	10 (30.3)	8 (24.2)	0 (0.0)	13 (39.4)	2 (6.1)
設問58 職員の給与や賞与等の計算業務	11 (35.5)	2 (6.5)	0 (0.0)	17 (54.8)	1 (3.2)
設問59 保護者への連絡業務	11 (22.9)	19 (39.6)	1 (2.1)	15 (31.3)	2 (4.2)
設問60 保育計画の立案業務	83 (72.8)	1 (0.9)	8 (7.0)	20 (17.5)	2 (1.8)
設問61 行事等の計画・実施業務	47 (45.6)	1 (1.0)	15 (14.6)	39 (37.9)	1 (1.0)

図11 業務改善・工夫への必要な理由



もっとも行われていたのは、設問60の行事（年・月・季節）等の計画・実施業務と設問61の保育計画（年・月・週・日）の立案業務だった。この二つが他を大きく引き離していた。まずは、必要性が高く経費も掛からない項目から取り組んでいる様子がうかがえる。設問62の自由記述には48件の回答があった。（その分析については本書95ページ参照）

（7）調査票Ⅴ 保育士の職について（参照：103ページ）

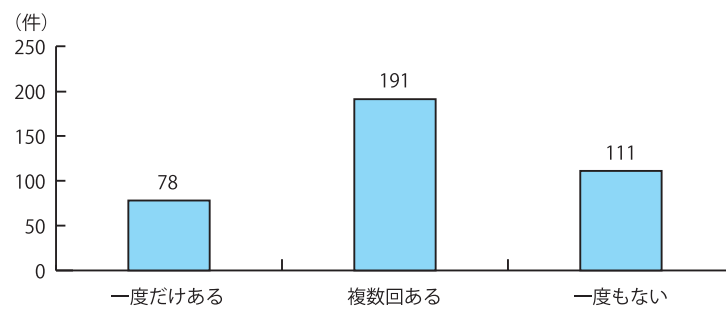
設問63 現在勤務している保育所を辞職したいと思ったことがあるかどうかを尋ねたものである。表12と図12に示したように約70%の保育士が1度以上は辞職を考えたことがあるという結果が得られた。

表12 保育士の退職意識

n=381

項目	件数	パーセント
一度だけある	78	20.5
複数回ある	191	50.1
無効・未回答	111	29.1
一度もない	1	0.3
合計	381	100.0

図12 保育士の退職意識



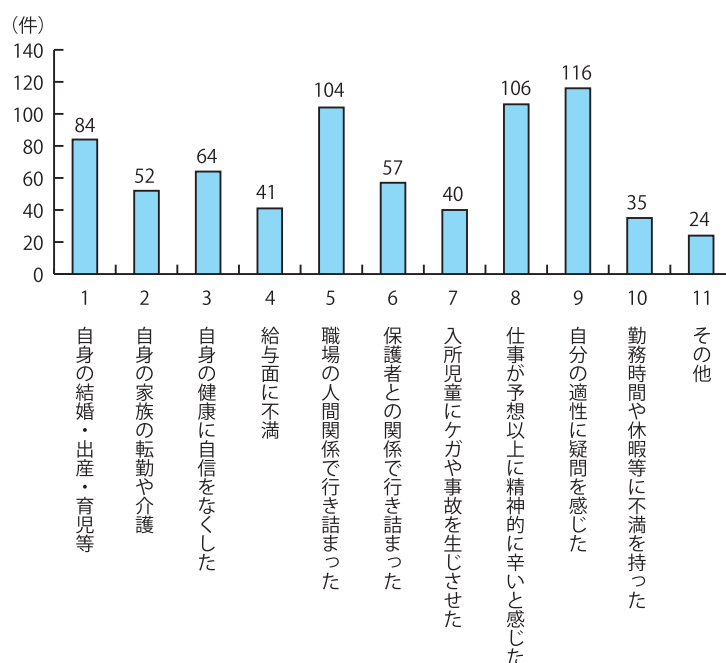
上記で、辞めたいと思ったことが「一度だけある」および「複数回ある」回答したものの269件を対象に、その理由を設問64で回答してもらった。各項目に対する結果は、表13と図13にまとめた。

表13 保育士の退職を考えた理由（複数回答）

n=269

項目	件数	パーセント
1 自身の結婚・出産・育児等	84	31.2
2 自身の家族の転勤や介護	52	19.3
3 自身の健康に自信をなくした	64	23.8
4 給与面に不満	41	15.2
5 職場の人間関係で行き詰った	104	38.7
6 保護者との関係で行き詰った	57	21.2
7 入所児童にケガや事故を生じさせた	40	14.9
8 仕事が予想以上に精神的に辛いと感じた	106	39.4
9 自分の適性に疑問を感じた	116	43.1
10 勤務時間や休暇等に不満を持った	35	13.0
11 その他	24	8.9
合計	723	—

図13 保育士の退職を考えた理由（複数回答）



上位5つは、「9 自分の適性に疑問を感じた時」（全回答269件に対して116件（43.1%）、以下全回答数同様）、「8 仕事が予想以上に精神的に辛いと感じた時」（106件（39.4%））、「5 職場の人間関係で行き詰った時」（104件（38.7%））、「1 自身に結婚・出産・育児等の問題が起きた時」（84件（31.2%））、「自身の健康に自信を無くした時」（64件（23.8%））だった。

保育所長へ辞職の理由を告げる場合の上位3つは、「1 自身に結婚・出産・育児等の問題が起きた時」、「2 自身の家庭・家族に転勤や介護等の問題が起きた時」、「3 自身の健康に自信を無くした時」だった。これらの結果と際立って異なっていることに注目しなければならないと考える。

また、保育士で「4 給与面に不満を持った時」を辞職理由に挙げたのは41件（15.2%）だったので、保育所長への理由説明同様、給与という経済的側面ではなく、むしろ保育士自身の能力・適性・職場の人間関係が辞職の契機になっていることを示していると思われる。

（8）調査票Ⅶ 現在の貴保育所に対する総合的な満足度（参照：109ページ）

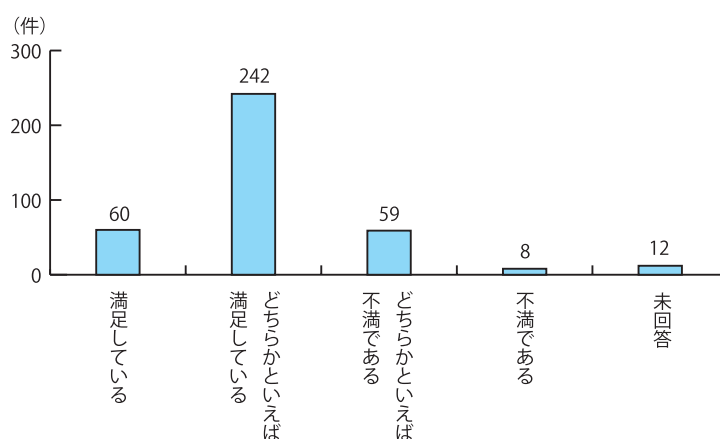
設問65は、保育士に対する仕事の満足度を尋ねたものである。表14と図14に示したように約80%が満足ないしどちらかといえば満足していた。約4分の1の保育所長は満足感を得られないまま業務を遂行している結果を得ているので、保育所長と保育士との職場における意識の違いが窺える。業務改善の課題の一つと指摘できるとと思われる。

表14 自身の仕事の満足度

n=381

項目	件数	パーセント
満足している	60	15.7
どちらかといえば満足している	242	63.5
どちらかといえば不満である	59	15.5
不満である	8	2.1
未回答	12	3.1
合計	381	100.0

図14 自身の仕事の満足度



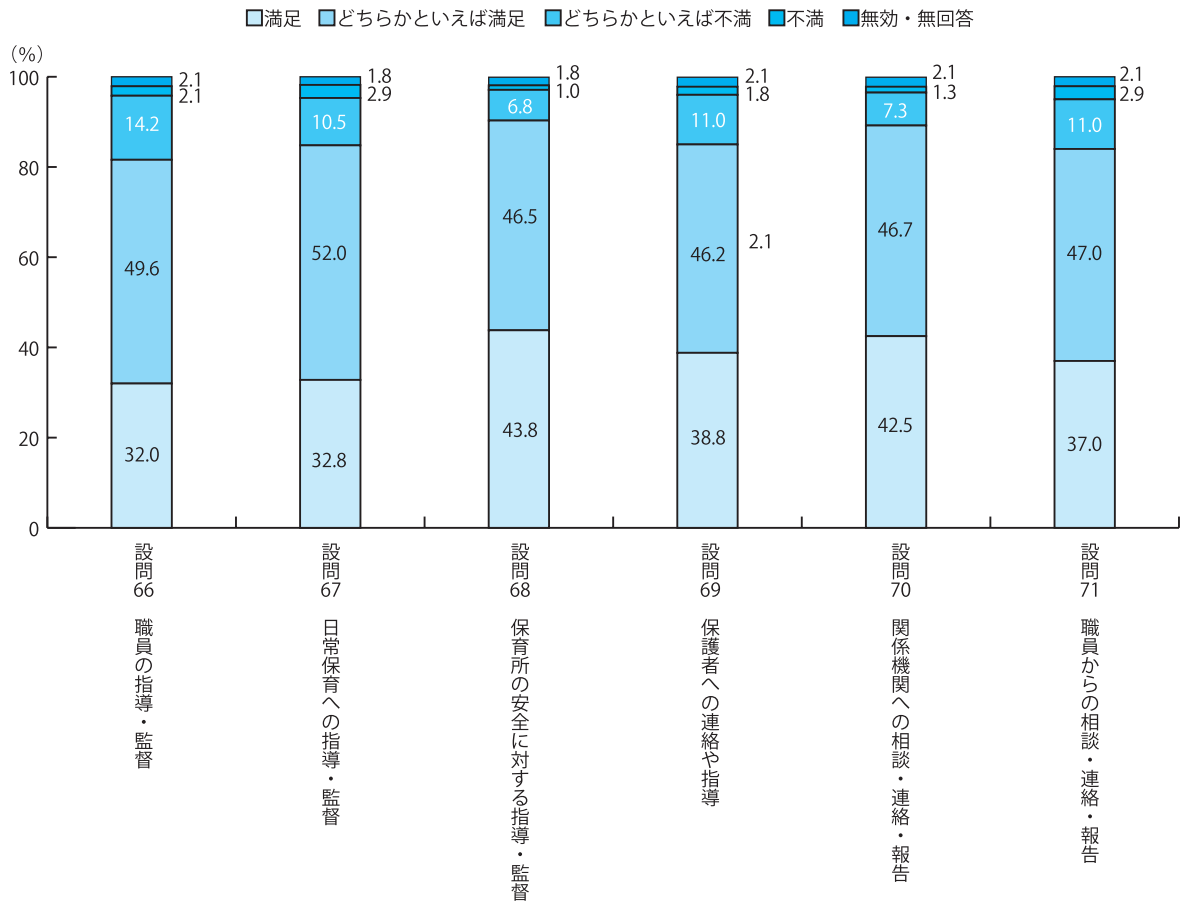
さらに、設問66から設問71において、保育所長や上司による指導・監督等の状況からその背景を探った。各問に対する結果は表15と図15に示したとおりである。

表15 保育所関係者に対する指導・監督等の満足度

n=381

項目	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無効未回答
設問66 職員の指導・監督	122 (32.0)	189 (49.6)	54 (14.2)	8 (2.1)	8 (2.1)
設問67 日常保育への指導・監督	125 (32.8)	198 (52.0)	40 (10.5)	11 (2.9)	7 (1.8)
設問68 保育所の安全に対する指導・監督	167 (43.8)	177 (46.5)	26 (6.8)	4 (1.0)	7 (1.8)
設問69 保護者への連絡や指導	148 (38.8)	176 (46.2)	42 (11.0)	7 (1.8)	8 (2.1)
設問70 関係機関への相談・連絡・報告	162 (42.5)	178 (46.7)	28 (7.3)	5 (1.3)	8 (2.1)
設問71 職員からの相談・連絡・報告	141 (37.0)	179 (47.0)	42 (11.0)	11 (2.9)	8 (2.1)

図15 保育所関係者に対する指導・監督等の満足度



満足ないしどちらかといえば満足と回答した項目を多い順から並べると、

- 「68 保育所の安全に対する指導・監督」(全回答381件に対して合計で344件 (90.3%)、以下同様)、
- 「70 関係機関への相談や連絡・報告」(340件 (89.2%))
- 「69 保護者への連絡や指導」(324件 (85.0%))
- 「67 日常保育についての指導・監督」(323件 (84.8%))
- 「71 職員からの相談や連絡・報告に対する指導・指示」(320件 (84.0%))
- 「66 あなたや他の職員への指導・監督」(311件 (81.6%))

この結果は、保育所長や上司は、まず所内の安全の確保に注意し、関係機関や保護者等保育所外への連絡等はおおむね満足できるが職員個人に対する指導・監督には満足がいけない点があるということを示している。

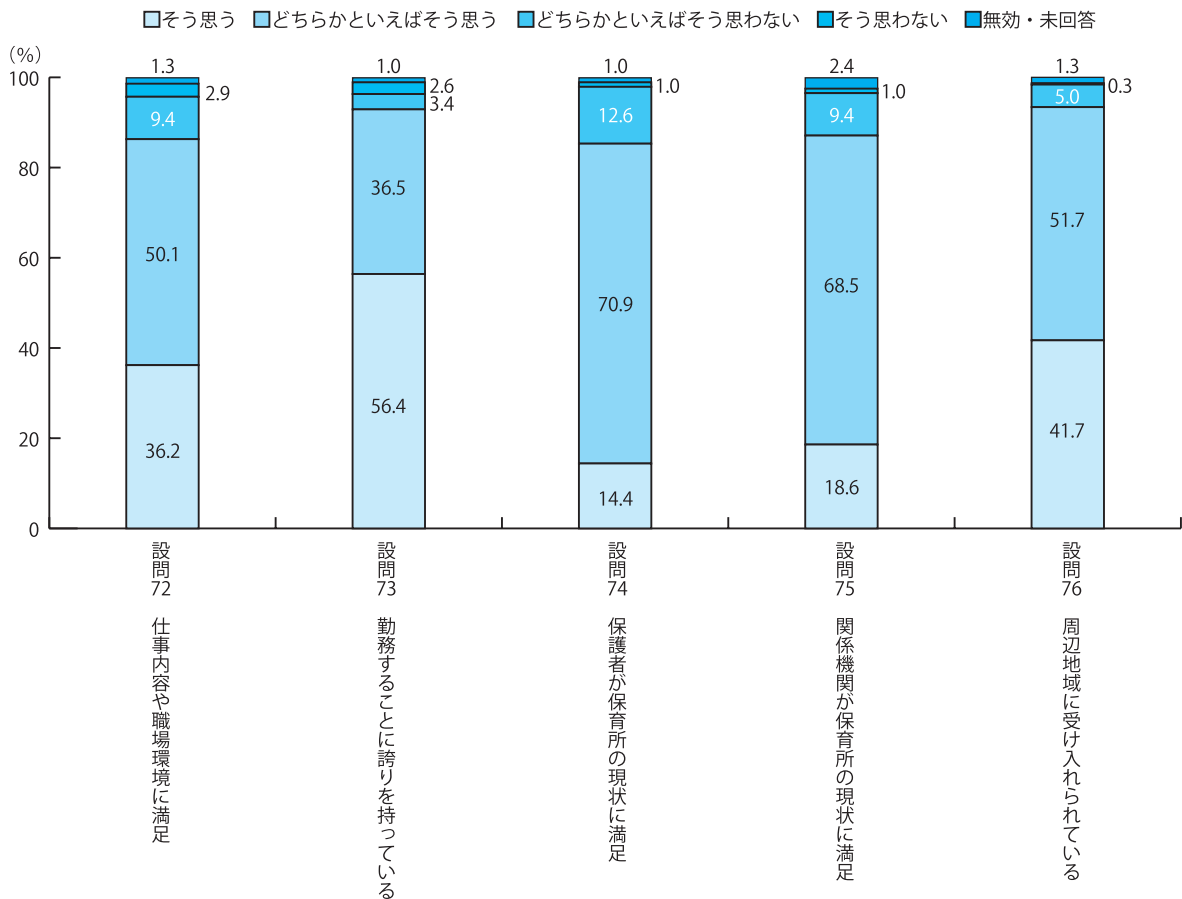
つぎは設問72から設問76まで、保育士の勤務先の保育所への満足度についてである。表16と図16にその結果をまとめた。

表16 保育所の各関係者の満足度

n=381

項目	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わない	そう 思わない	無効 未回答
設問72 仕事内容や職場環境に満足	138 (36.2)	191 (50.1)	36 (9.4)	11 (2.9)	5 (1.3)
設問73 勤務することに誇りを持っている	215 (56.4)	139 (36.5)	13 (3.4)	10 (2.6)	4 (1.0)
設問74 保護者が保育所の現状に満足	55 (14.4)	270 (70.9)	48 (12.6)	4 (1.0)	4 (1.0)
設問75 関係機関が保育所の現状に満足	71 (18.6)	261 (68.5)	36 (9.4)	4 (1.0)	9 (2.4)
設問76 周辺地域に受け入れられている	159 (41.7)	197 (51.7)	19 (5.0)	1 (0.3)	5 (1.3)

図16 保育所の各関係者の満足度



満足度が高かった順に並べると、

76 「周辺地域に受け入れられている」「満足していると思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて全回答数381件中356件 (93.4%)

73 「保育所に勤務することに誇り」(354件 (92.9%))

75 「関係機関が保育所の現状に十分満足」(332件 (87.1%))

72「仕事内容や職場環境」(329件(86.3%)以下同様)、

74「現状に十分満足」(325件(85.3%))

の順だった。保育所長に対する設問への回答と合わせて保育所全体が一丸となって奮闘し、地域に貢献している様子を浮き彫りにした結果となった。とはいえ、現状に十分満足している訳ではないとも回答している。安易な妥協を認めない高い向上心も感じられる。

(9) 調査票Ⅶ その他

最後の設問77の自由記述に関しては、102件の回答があった。(その分析については本書127ページ参照)